

令和元年度第2回上越市食育推進会議次第

日時：令和2年2月6日（木）

午後1時30分から

会場：上越文化会館 大会議室

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) 令和元年度上越市食育推進実施計画（アクションプラン）進捗管理について

(2) 第3次上越市食育推進計画指標項目の取組状況の確認について

(3) 意見交換

テーマ：上越市のこれからの食育推進について

4 その他

- ・各委員が行う食育推進事業についての情報交換
- ・その他

5 閉 会

令和2年2月6日
上越市食育推進会議
資料 NO. 1

令和元年度
上越市食育推進実施計画
(アクションプラン)
進捗管理表

令和2年2月

上 越 市

ページ	事業No.及び事業名	事業担当課
1	(1)-① 母子保健事業(すくすく赤ちゃんセミナー)	健康づくり推進課
2	(1)-② 乳幼児期の食育推進	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
3	(1)-③ 学校における食育の推進	学校教育課
4	(1)-④ 思春期・青年期の食育の推進	健康づくり推進課・学校教育課・農村振興課
5	(1)-⑤ 保健指導事業	健康づくり推進課
6	(1)-⑥ 保健指導事業	健康づくり推進課
7	(1)-⑦ 母子保健事業、保健指導事業	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
8	(1)-⑧ 歯科保健事業の推進	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
9	(1)-⑨ 健康づくり支援店の拡大	健康づくり推進課
10	(1)-⑩ 身体機能維持支援事業	健康づくり推進課
11	(2)-① 保健指導事業	健康づくり推進課
12	(2)-② 保健指導事業	健康づくり推進課
13	(2)-③ 生活習慣病予防事業	健康づくり推進課
14	(3)-①-① 家庭菜園での栽培体験等の推進	農村振興課
15	(3)-①-② 食に関するイベント等の実施	農村振興課
16	(3)-①-③ 食生活の改善に必要な情報提供	農村振興課・関係課
17	(3)-①-④ 家族での共食についての啓発活動	農村振興課
18	(3)-②-① 保育園・幼稚園・小中学校での食の体験活動	学校教育課・保育課
19	(3)-②-② 家庭や地域とともに進める食に関する教育活動	学校教育課
20	(3)-②-③ 特色ある食に関する教育活動の推進	学校教育課
21	(3)-③-① 保健指導事業、食生活改善事業	健康づくり推進課
22	(3)-③-② 日本型食生活の普及活動	農村振興課
23	(3)-③-③ 国が定める「食育月間」、「食育の日」の普及活動	農村振興課
24	(3)-③-④ 地域での共食についての情報提供	農村振興課
25	(4)-① 郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施	社会教育課
26	(4)-① 謙信KIDSプロジェクト	社会教育課
27	(4)-① 「発酵のまち上越」の啓発活動	上越ものづくり振興センター
28	(4)-② 地場の食品、郷土料理を取り入れた学校給食の推進	教育総務課
29	(4)-③ 地産地消推進の店認定事業	農村振興課
30	(5)-① 食育推進関連団体との連携強化	農村振興課・関係課
31	(5)-② 健康づくり推進協議会の開催	健康づくり推進課
32	(6)-① 食育に関する積極的な情報提供	農村振興課・関係課
33	(6)-① 給食だよりの発行による情報提供	教育総務課
34	(6)-② 食育フォーラムの開催	農村振興課・関係課
35	(7)-① 食の安全に関する情報発信	健康づくり推進課
36	(7)-② 農畜産物の表示に関する研修や啓発活動の実施	農政課
37	(7)-③ 農林水産物等の放射性物質検査の情報発信	農政課・農林水産整備課
38	(8)-① 地域食材による給食の提供	教育総務課
39	(8)-① 学校給食用野菜産地の育成	農政課
40	(8)-② 直売所情報の発信	農政課
41	(9)-① 園芸振興事業	農政課
42	(9)-② 農林漁業体験活動等の情報提供	農村振興課
43	(9)-③ 都市と農村の交流促進	農村振興課
44	(10)-① 多面的機能支払(生物多様性保全の推進)	農林水産整備課
45	(10)-① 環境保全型農業直接支援対策	農政課
46	(10)-② 桑取川魚の森づくり事業	農林水産整備課
47	(10)-③ 食品ロス削減に関する啓発活動	農村振興課

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-① 母子保健事業(すくすく赤ちゃんセミナー)
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	妊婦が正常な妊娠の維持と出産ができるよう、また妊婦健診の結果に応じた生活が分かるようにし、両親の将来の生活習慣病予防にもつなげる。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	すくすく赤ちゃんセミナーを実施し、妊産婦等へ食育の啓発を行う。				
(目標)	妊婦やその家族が妊婦の食生活の重要性について理解を深める。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・すくすく赤ちゃんセミナーにおいて、妊娠・出産・育児の正しい知識を学び、妊娠期から子どもの成長や発達、育児について考える機会を持ち、子どもが健やかに育つことができるよう支援した。 ・事業実施後のアンケートから、「妊婦とその家族の生活の振り返りができた」という感想が聞かれた。また、「妊婦健診の結果を確認の上で、生活習慣を見直したい」等、自分の体と生活を結びつけた感想も伺うことができた。 ・すくすく赤ちゃんセミナー(中期) 初産婦参加率 57.5% 妊婦に対しての夫の参加率 72.6% 	<ul style="list-style-type: none"> ・すくすく赤ちゃんセミナーにおいて、妊娠・出産・育児の正しい知識を学び、妊娠期から子どもの発育や発達・育児について考える機会を持ち、子どもが健やかに育つことができるよう支援した。あわせて、妊婦とその家族に対し、食生活の重要性を理解し、生活の中で取り組めるよう支援した。 ・事業実施後のアンケートから、「妊婦や家族の生活の振り返りができた」という感想や「妊婦健診の結果を確認し、食生活に注意していきたい」等、自分の体と生活を結びつけた感想が聞かれた。 ・すくすく赤ちゃんセミナー(中期) 初産婦参加率 61.1% 妊婦に対しての夫の参加率 72.5% (R1.12月末現在)
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じた健康づくりは妊娠期から始まることから、妊婦やその家族が食生活や休養等の生活習慣の重要性について理解を深めることができるよう支援を続ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じた健康づくりは妊娠期から始まることから、妊婦やその家族が食生活や休養等の生活習慣の重要性について、理解を深めることができるよう支援を継続していく必要がある。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-② 乳幼児期の食育推進
事業担当課	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
取組の概要	子どもの成長・発達に応じた食生活についての正しい知識の啓発や、生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	母子健診、離乳食相談会、訪問、保育園・認定こども園・幼稚園の健康講座を実施し、健全な食生活の啓発を行う。				
(目標)	肥満、やせの子どもを減らす。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	△(事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 離乳食相談会、乳幼児健康診査において、子どもの発育発達にあった食生活について、健康教育、健康相談を実施した。また、必要に応じて個別相談や家庭訪問による保護者への支援を実施した。 3歳児健診における状況 肥満傾向児の割合 平成28年度 4.3%→平成29年度 4.9% やせの割合 平成28年度 0.5%→平成29年度 0.2% <p>肥満傾向児の割合が増えてきていることから、30年度途中から、1歳以降の全ての幼児健康診査の内容を充実化し、計測後すぐに肥満度を算出、成長曲線に記録の上で、成長曲線に基づいた個別の栄養相談を強化している。</p> <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育園及び認定こども園において、「成長曲線」の活用を開始した。 保護者が子の身長、体重をグラフに自ら記入することにより、子の発育状況を視覚的に確認することができるようになった。 肥満傾向の園児については、園と地区担当の保健師、栄養士が連携し、保護者面談等の支援を行っている。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公立幼稚園では、日常的に紙芝居や絵本などを用いて、望ましい食習慣が身につくよう指導を実施した。 肥満傾向にある園児については、保護者と面談して栄養指導等を実施した。 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 離乳食相談会、乳幼児健康診査において、子どもの発育発達にあった食生活について、健康教育を実施した。また、必要に応じて、個別相談や家庭訪問による保護者への支援を実施した。 3歳児健診における状況 肥満傾向児の割合 平成29年度 4.9%→平成30年度 4.9% やせの割合 平成29年度 0.2%→平成30年度 0.3% <p>肥満傾向児の割合を減らすため、すべての乳幼児健診において、肥満度の算出、成長曲線への記録を行い、保護者自らが子どもの体重の伸びを視覚的に確認できるように支援した。また、1歳児健康診査以降のすべての幼児健康診査における健康教育の内容を充実するとともに、個別の栄養相談による支援を行った。</p> <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育園及び認定こども園において、「成長曲線」の活用を行い、保護者が子の身長、体重をグラフに自ら記入し、子の発育状況を視覚的に確認している。 肥満傾向の園児については、園と地区担当の保健師、栄養士が連携し、保護者面談等の支援を行っている。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公立幼稚園では、日常的に紙芝居や絵本などを用いて、望ましい食習慣が身につくよう指導を実施した。 「成長曲線」の活用を行うとともに、肥満傾向にある園児については、保護者と面談して栄養指導等を実施した。
今後の課題・反省点	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 肥満傾向児の減少に向けて、3歳児健診までの乳幼児健診において、生活リズムや食生活についての健康教育、成長曲線の活用を充実していく。また、集団指導に加えて、個別指導を強化していく。 今後も保育園や学校、必要に応じて医療機関とも連携し、保護者及び家族への支援を継続する必要がある。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 肥満ややせの減少に向け、「成長曲線」を活用しながら、適切なタイミングで支援につなげていくことが必要である。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「成長曲線」を活用しながら個別相談を実施するなど、保護者への支援を継続するとともに、健康教育を充実させる。 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 肥満傾向児の減少に向けて、3歳児健康診査までの乳幼児健診において、生活リズムや発育発達にあわせた食生活についての健康教育を充実していく。また、成長曲線を活用した個別指導を充実していく。 3歳児健康診査以降、園や学校、必要に応じて医療機関と連携し、保護者及び家族への支援を継続していく必要がある。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 肥満ややせの減少に向け、「成長曲線」を活用しながら、適切なタイミングで支援につなげていくことが必要である。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「成長曲線」を活用しながら個別相談を実施するなど、保護者への支援を継続するとともに、健康教育を充実させる。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-③ 学校における食育の推進
事業担当課	学校教育課
取組の概要	食に関する指導の全体計画に基づき、食に関する教育活動を実施する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	給食だよりを毎月発行するとともに、栄養教諭や栄養職員と連携した給食指導を実施する。				
(目標)	児童生徒が食に対する正しい知識について理解を深める。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 全ての小中学校で、給食だよりを毎月発行し、栄養バランスのとれた食事の重要性、食事のマナー、食品の栄養等について情報提供した。 食に関する全体計画に基づき、栄養教諭や栄養職員と連携して食に関する指導を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての小中学校で、給食だよりを毎月発行し、栄養バランスのとれた食事の重要性、食事のマナー、食品の栄養等について情報提供を行った。 食に関する全体計画に基づき、栄養教諭や栄養職員と連携して食に関する指導を実施した。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域との連携をより充実、発展させ、様々な機会を通して食に関する情報発信、情報提供を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域との連携をより充実、発展させ、様々な機会を通して食に関する情報発信、情報提供を継続する。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-④ 思春期・青年期の食育の推進
事業担当課	健康づくり推進課・学校教育課・農村振興課
取組の概要	学校保健委員会や授業の一環として、自分の体にあわせた食事のとり方等の指導を行い、心身の成長や健全な生活習慣の基礎を確立するための支援を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	学校保健委員会や学校授業の中で身体の成長発達にあわせた食事の摂り方等を呼びかける。				
(目標)	正しい食の知識を持った生徒や若者を増やす。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○ (計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期に関しては、生活習慣病予防に関する健康講座を希望した南城高校、有恒高校、高田特別支援学校の3校で実施した。講座の内容については、養護教諭と連携しながら、生徒の実態に合わせた内容とした。 ・実施後のアンケートから、生徒自身が自分の生活を振り返るとともに、生活リズムや食生活について、今できることを考えてもらう学習の機会となったことが伺えた。 ・青年期に関しては、市民健康診査や健診結果説明会、家庭訪問、企業での健康教育において、自身の体の状態を理解し、生活習慣を見直すための支援を行った。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活や生活リズム、生活習慣病予防教育をテーマにした学校保健委員会を開催し、食について考える機会を設けた。 ・栄養教諭と連携し、学校生活のさまざまな機会をとらえ食に関する指導を実施した。 <p>【農村振興課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近い将来、自立した食生活を送ることとなる高校生を中心に、食の大切さを伝え、自分に必要な食を選択できる食育の実践技術を身に付ける機会とする高校生に向けた食育推進事業を上越教育大学と連携し行った。 ・高田高校：全3回 1年生を対象とした食生活についての授業 調理クラブ、男子バスケットボール部を対象としたレシピのない調理実習 ・高田農業高校：全3回 食品科学科の3年生を対象とした食についての授業とグループワーク、実践に向けたレシピのない調理実習 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期に関しては、生活習慣病予防に関する健康講座を希望した南城高校、有恒高校、高田特別支援学校、上越特別支援学校の4校で実施した。講座の内容については、養護教諭と連携しながら、生徒の実態に合わせた内容とした。 ・実施後のアンケートから、生徒自身が自分の生活を振り返るとともに、生活リズムや食生活について、今できることを考えてもらう学習の機会となったことが伺えた。 ・青年期に関しては、市民健康診査や健診結果説明会、家庭訪問、企業での健康教育において、自身の体の状態を理解し、生活習慣を見直すための支援を行った。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食生活や生活リズム、生活習慣病予防教育をテーマにした学校保健委員会を開催し、食について考える機会を設けた。 ・栄養教諭と連携し、学校生活のさまざまな機会をとらえ食に関する指導を実施した。 <p>【農村振興課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近い将来、自立した食生活を送ることとなる高校生を中心に、食の大切さを伝え、自分に必要な食を選択できる食育の実践技術を身に付ける機会とする高校生に向けた食育推進事業を上越教育大学と連携し行った。 ・高田高校：全3回 1年生を対象とした食生活についての授業 調理クラブ、男子バスケットボール部を対象としたレシピのない調理実習 ・高田農業高校：全3回 食品科学科の3年生を対象とした食についての授業とグループワーク、実践に向けたレシピのない調理実習
今後の課題 ・ 反省点	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、各学校生徒の実態・課題を養護教諭等と確認しながら、就職や進学等により、自立した生活に向かう時期に、将来の見通しを立てながら、自らの生活を振り返り、体の状態に合わせた食の選択力や実践力をつけていく取組が必要である。また、現在、一部の高校のみで実施している状況であることから、講座を実施していない高校に向けて、取り組んでもらうよう働きかけを行う必要がある。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイル調査を基に、児童生徒の実態を把握し、健康教育を継続する。 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、各学校生徒の実態・課題を養護教諭等と確認しながら、就職や進学等により、自立した生活に向かう時期に、将来の見通しを立てながら、自らの生活を振り返り、体の状態に合わせた食の選択力や実践力をつけていく取組が必要である。また、現在、一部の高校のみで実施している状況であることから、講座を実施していない高校に向けて、取り組んでもらうよう働きかけを行う必要がある。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフスタイル調査の結果を基に健康教育を継続する。 <p>【農村振興課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の食育実践度が低い現状が続いていることから、引き続き、食育の専門知識を持つ大学生と連携することにより、高校生を対象とした実践につながる取組を行う必要がある。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-⑤ 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	自身の食習慣と身体の状態を考え合わせながら、適正な食事量の摂取を心がけ、生活習慣病の予防を啓発する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	健診結果説明会や健康講座、個別訪問など様々な場面で、適正な食事量の摂取、生活習慣病予防の働きかけをしていく。				
(目標)	適正な生活習慣、食習慣を実践している人を増やす。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○ (計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会・家庭訪問では自分の健診結果と食生活を関連付け、健診結果の改善につながるよう支援した。 <結果説明会> 平成29年度 429回 参加者数 7,652人 平成30年度 361回 参加者数 5,192人 (H30.12月末現在) <家庭訪問・個別指導> 平成29年度 延べ 9,010人 平成30年度 延べ 9,479人 (H30.12月末現在) ・地域や職域での健康教育を行い、健診結果と食習慣のつながりについて説明した。 平成29年度 406回 参加者数 13,200人 平成30年度 265回 参加者数 9,967人 (H30.12月末現在) 	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会・家庭訪問では自分の健診結果と食生活を関連付け、健診結果の改善につながるよう支援した。 <結果説明会> 平成30年度 421回 参加者数 7,481人 令和元年度 367回 参加者数 5,571人 (R1.12月末現在) <家庭訪問・個別指導> 平成30年度 延べ 11,386人 令和元年度 延べ10,325人 (R1.12月末現在) ・地域や職域での健康教育を行い、健診結果と食習慣のつながりについて説明した。 平成30年度 436回 参加者数 13,950人 令和元年度 284回 参加者数 10,829人 (R1.12月末現在)
今後の課題・反省点	・集団の健診結果説明会から個別性を重視した家庭訪問に支援方法を変更し、広く市民に、健診を受け自らの健康状態を理解することの重要性を伝え、生活習慣病予防の普及・啓発活動を行っている。特に働き盛り世代に、市の健康実態や健診結果の見方などについて理解してもらえるよう、今後も継続した取組が必要である。	・集団の健診結果説明会から個別性を重視した家庭訪問に支援方法を変更し、広く市民に、健診を受け自らの健康状態を理解することの重要性を伝え、生活習慣病予防の普及・啓発活動を行っている。特に働き盛り世代に、市の健康実態や健診結果の見方などについて理解してもらえるよう、今後も継続した取組が必要である。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-⑥ 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	高齢期での心身の変化を踏まえ、自身の食習慣と身体の状態を考え合わせながら、健康維持のために必要な適正な食事量の摂取について啓発を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	地域で行う健康講座などで高齢期における適正な食事量の摂取などについて啓発を行う。				
(目標)	正しい食の知識を持った高齢者を増やす。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会や家庭訪問では、自分の健診結果と食生活を関連付け、健診結果の改善につながるよう支援した。 ・高齢者健康支援訪問を行い、自分の健康状態(健診結果)を把握し、改善につながるよう支援した。 平成29年度 延べ 2,977件 平成30年度 延べ 2,854件 ・地域の健康講座の中で健康教育を行い、健診結果と食習慣のつながりについて説明した。 ・高齢者(65歳以上)の適正体重を維持している人の割合 平成29年度 58.6% 平成30年度 57.0% ・低栄養傾向(BMI20以下)と肥満(BMI25以上)の割合 ○低栄養傾向 平成29年度 20.4% 平成30年度 20.6% ○肥満 平成29年度 21.0% 平成30年度 22.4% 	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会や家庭訪問では、自分の健診結果と食生活を関連付け、健診結果の改善につながるよう支援した。 ・高齢者健康支援訪問を行い、自分の健康状態(健診結果)を把握し、改善につながるよう支援した。 平成30年度 延べ 2,854件 令和元年度 延べ 2,185件(R1.12月末現在) ・地域の健康講座の中で健康教育を行い、健診結果と食習慣のつながりについて説明した。 ・高齢者(65歳以上)の適正体重を維持している人の割合 平成30年度 57.0% 令和元年度 57.1%(R1.12月末現在) ・低栄養傾向(BMI20以下)と肥満(BMI25以上)の割合 ○低栄養傾向 平成30年度 20.6% 令和元年度 20.7%(R1.12月末現在) ○肥満 平成30年度 22.4% 令和元年度 22.1%(R1.12月末現在)
今後の課題 ・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期の特性を踏まえ、栄養バランスの偏りなどによる低栄養や生活習慣病などの問題を未然に防ぎ、健康寿命を延ばせるよう、健康状態に応じた食生活を実践できるよう支援を継続していく必要がある。 ・さらには、高齢期の健康を維持するために、より早い段階から適正な食事量の摂取などについて啓発を行い、低栄養の予防等を推進していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期の特性を踏まえ、栄養バランスの偏りなどによる低栄養や生活習慣病などの問題を未然に防ぎ、健康寿命を延ばせるよう、健康状態に応じた食生活を実践できるよう支援を継続していく必要がある。 ・さらには、高齢期の健康を維持するために、より早い段階から適正な食事量の摂取などについて啓発を行い、低栄養の予防等を推進していく必要がある。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-⑦ 母子保健事業 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面で生活リズムに配慮した健全な食生活について啓発する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	各ライフステージで行われる健康教育の中に朝食をきちんと摂ることの必要性についての内容を盛り込み啓発をしていく。				
(目標)	朝食を欠食する人を減らす。 小学生0% 中学生0% 若い世代 10%以下	小学生0% 中学生0% 若い世代 9%以下	小学生0% 中学生0% 若い世代 8%以下	小学生0% 中学生0% 若い世代 7%以下	小学生0% 中学生0% 若い世代 6%以下

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	△ (事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期(すくすく赤ちゃんセミナー)、乳幼児期(各乳幼児健診、相談会)、学童期(小中学校血液検査事業、学校保健委員会等)、思春期(高校健康教育)、成人期・高齢期(企業での健康教育、地区健康講座等)において、各ライフステージの特性を踏まえ、体のリズムと朝食を摂ることの必要性に関する健康教育を実施した。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立保育園全園において、保健師や栄養士等が保護者を対象に子どもの生活リズムや食生活に関する「健康教育講座」を年1回実施した。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康的な生活行動が実践できるよう、食事、睡眠、運動の健康三原則に関する保健学習や保健指導を実施した。 ・朝食を欠食する市民の割合 小学生：4.2% 中学生：6.2% 若い世代：15.2% (食育市民アンケート結果) 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期(すくすく赤ちゃんセミナー)、乳幼児期(各乳幼児健康診査、相談会)、学童期(小中学校血液検査事業、学校保健委員会等)、思春期(高校健康教育)、成人期・高齢期(企業での健康教育、各地区健康講座等)において、各ライフステージの特性を踏まえ、体のリズムと朝食を摂ることの必要性に関する健康教育を実施した。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立保育園全園において、保健師や栄養士等が保護者や祖父母を対象に子どもの生活リズムや食生活に関する「健康教育講座」を年1回実施した。また、園児に向けては、「食育集会」の中で、朝食をとることの必要性についての内容も盛り込みながら実施している。 ・家庭用給食だより等を通じて、朝食の必要性に関する内容についても啓発をしている。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康的な生活行動が実践できるよう、食事、睡眠、運動の健康三原則に関する保健学習や保健指導を実施した。 ・朝食を欠食する市民の割合 小学生：3.4% 中学生：5.2% 若い世代：13.2% (食育市民アンケート結果)
今後の課題・反省点	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い世代から食生活の乱れが見られ、乳幼児期からの肥満や生活習慣病の発症も懸念されることや、高齢期においても過剰栄養の生活習慣病の重症化だけでなく、低栄養からの要介護状態も懸念されることから、各ライフステージの特性を踏まえて、様々な場面で健全な食生活についての健康教育が必要である。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き「健康教育講座」を継続実施していく。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂取の重要性について指導を継続する。 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期からの肥満や生活習慣病の発症が懸念されることや、高齢期においては過剰栄養による生活習慣病の重症化だけでなく、低栄養による要介護状態も懸念されることから、各ライフステージの特性を踏まえ、様々な場面を通じて健全な食生活についての健康教育を実施する必要がある。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、子ども、保護者、祖父母に向けた健康教育講座や食育集会等の取組を継続し、その中で朝食摂取の必要性についての啓発を行っていくことが必要である。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂取の重要性について指導を継続する。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-⑧ 歯科保健事業の推進
事業担当課	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面でよく噛んで食べる習慣の啓発を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	各ライフステージで行われる歯科保健教育の中でよく噛んで食べることの重要性についての内容を盛り込み啓発をしていく。				
(目標)	ゆっくりよく噛んで食べる人を増やす。 65%以上	66%以上	67%以上	68%以上	70%以上

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	△(事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離乳食相談会において、オーラルトレーニングについて、1歳児以降定期的な歯科健診とブラッシング指導、希望者へのフッ素塗布、食生活指導等の健康教育や健康相談を実施した。 ・成人期においては、成人歯科健診とブラッシング指導、集団健診での問診項目に咀嚼の項目を加えて保健指導を行った。以前から実施している歯周病の簡易検査に併せて歯科衛生士による健康教育を実施した。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育園を除く全ての保育園及び認定こども園に歯科衛生士等を派遣し、園児と保護者に歯の大切さの講話とブラッシング指導を実施した。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての幼稚園、小中学校に歯科衛生士を派遣し、ブラッシング指導並びに健康な歯を保つための取組を実施した。 ・給食の時間に、よく噛んで食べることの重要性について指導を実施した。 <p>【食育市民アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合 43.3% 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離乳食相談会において、オーラルトレーニングについて啓発を行い、また1歳児以降については、定期的な歯科健診とブラッシング指導、希望者へのフッ素塗布、食生活指導等の健康教育や健康相談を実施した。 ・成人期においては、成人歯科健診とブラッシング指導、集団健診での保健指導を行った。また、歯科衛生士による歯周病予防講座を歯周病予防の効果がある若い年代を中心に実施した。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児保育園を除くすべての保育園及び認定こども園に歯科衛生士等を派遣し、園児と保護者に歯の大切さの講話とブラッシング指導を実施した。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立幼稚園、小中学校に歯科衛生士を派遣し、ブラッシング指導並びに健康な歯を保つための取組を実施した。 ・給食の時間に、よく噛んで食べることの重要性について指導を実施した。 <p>【食育市民アンケート結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合：43.5%
今後の課題 ・ 反省点	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯周病の発症が低年齢化し、年齢が上がるにつれて歯周病と診断される人が増加しているため、幼児健診や離乳食相談会等の母子事業、すくすく赤ちゃんセミナー等の様々な機会を通じて歯周病予防の啓発を継続して行っていく必要がある。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、保育園及び認定こども園での取組を継続していく。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、歯科保健教育を継続していく。 	<p>【健康づくり推進課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯周病の発症年齢が低年齢化しており、また年齢が上がるにつれて歯周病と診断される人が増加しているため、幼児健診や離乳食相談会等の母子事業、すくすく赤ちゃんセミナーや町内会の健康講座等の様々な機会を通じて歯周病予防の啓発を継続して行っていく必要がある。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、保育園及び認定こども園での取組を継続していく。 <p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、歯科保健教育を継続していく。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-⑨ 健康づくり支援店の拡大
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	県と連携し、健康づくり支援店の普及をすすめる。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	市ホームページなどを通じ健康づくり支援店制度に関する情報提供を行う。				
(目標)	健康づくり支援店を225軒以上にする。		健康づくり支援店を230軒以上にする。		健康づくり支援店を236軒以上にする。

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	◎	◎ (計画以上に成果が挙げた)
主な事業実績	・県と連携し、健康づくり支援店で食に関する取組を実施した。登録店は平成29年度で258件、前年度から28軒増加した。(県集計数値)	・県と連携し、健康づくり支援店で食に関する取組を実施した。登録店は平成30年度末で249店舗、廃業や閉店により前年度より9店舗減少した。(県集計数値)
今後の課題・反省点	・目標件数は達成した。今後も継続して事業主に市の健康実態や食に関する情報提供等を行い、健康づくり支援店増加の働きかけを継続していく必要がある。 ・また、県食育計画において、平成23年度に目標(店舗数)を達成したことから、平成25年度策定の第2次食育推進計画以降は、「健康づくり支援店の支援内容の拡充(支援内容を2つ以上実施する店の割合)」を掲げており、件数に加え、内容の充実をはかる必要がある。	・昨年度より店舗数は減少したが、目標件数は達成している。今後も保健所と連携しながら、健康づくり支援店増加の働きかけを継続していく必要がある。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(1)-⑩ 身体機能維持支援事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	各ライフステージの様々な場面で運動習慣の確立への働きかけをしていく。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	各ライフステージで行われる健康教育の中で運動習慣を確立させるための働きかけをしていく。				
(目標)	運動習慣のある人を増やす。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	○ (計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<p>・事業を上越市運動普及推進員協議会に委託し、市の健康増進計画改定版を踏まえ、広く市民に各年代の体の特徴にあった運動習慣につながるよう支援を行った。</p> <p><平成29年度> 委託事業 129回 7,917人 自主活動 532回 4,159人</p> <p><平成30年度> 委託事業 151回 5,160人 自主活動 550回 8,390人</p> <p>・健診時間診項目で運動頻度が「週3回以上」と答えた人の割合 <平成29年度> 20歳～64歳：29.5% 65歳以上：46.0%</p> <p>・健診時間診項目で「30分以上の運動を週2日以上、1年以上実施している」人の割合 <平成30年度> 20歳～64歳：20.7% 65歳以上：34.9%</p> <p>※平成30年度から「標準的な健診・保健指導プログラム(H30)」の運動に関する問診項目と同様とする。</p>	<p>・事業を上越市運動普及推進協議会に委託し、市の健康増進計画を踏まえ、広く市民に各年代の体の特徴にあった身体活動・運動習慣の定着につながるよう支援を行った。</p> <p><令和元年度(R1.12月末現在)> 委託事業(運動普及事業・体力測定事業) 152回 5,281人 自主活動 306回 4,711人</p> <p>・健診問診項目で「30分以上の運動を週2回以上、1年以上実施している」人の割合(R1.12月末現在) 20～64歳：22.9% (前年度比：2.2ポイント増) 65歳以上：36.1% (前年度比：1.2ポイント増)</p>
今後の課題・反省点	<p>・運動習慣のある人が減少していることから、特に運動習慣の少ない働き盛り世代に運動習慣の普及・啓発を行っていく必要がある。</p>	<p>・運動習慣のある人は若干増加しているが、20～64歳は継続的に運動を実施している人の割合が低いため、特に運動習慣の少ない働き盛り世代に身体活動・運動習慣の普及・啓発を継続実施する必要がある。</p>

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(2)-① 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	メタボリックシンドロームとなることにより引き起こされる可能性が高まる様々な病気やその原因と予防、改善についての啓発を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	健診結果説明会や健康講座等でメタボリックシンドロームの予防・改善を啓発していく。				
(目標)	メタボリックシンドロームに関係する健診項目を改善させる。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○ (計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会、生活習慣病予防講座でメタボリックシンドロームのメカニズムについて説明し、予防や改善についての啓発を行った。 <健診結果が改善した人の割合> ・高血圧Ⅱ度以上者 H29年度 50.3%→H30年度 55.3% ・HbA1c6.5%以上者 H29年度 29.4%→H30年度 40.2% ・LDLコレステロール140mg/dl以上者 H29年度 52.2%→H30年度 45.1% <特定保健指導実施率> ・H29年度 64.5%→H30年度 62.2% (法定報告値) 	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会、生活習慣病予防講座等でメタボリックシンドロームのメカニズムについて説明し、予防や改善についての啓発を行った。 <健診結果が改善した人の割合> ・高血圧Ⅱ度以上者 令和元年度 (R1.12月末現在) 54.1% ・HbA1c6.5%以上者 令和元年度 (R1.12月末現在) 51.2% ・LDLコレステロール140mg/dl以上者 令和元年度 (R1.12月末現在) 42.4% <特定保健指導実施率> 令和元年度法定報告値は令和2年12月に確定予定。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・基準値以上の検査数値の改善割合は4割を超えているため、今後も健診の受診勧奨とともに、健診結果説明会や健康講座等への参加を促していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基準値以上の検査数値の改善割合は約半数である為、引き続き訪問や健診結果説明会などで保健指導を実施し、有所見者の生活習慣改善や病院受診勧奨を促す。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(2)-② 保健指導事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	肥満により引き起こされる可能性が高まる様々な病気やその原因と予防、改善についての啓発を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	結果説明会や健康講座等で肥満の予防・改善を啓発していく。				
(目標)	適正体重を維持している人を増やす。 男性75%以上 女性85%以上				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	△ (事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会や生活習慣病予防講座等で、1日の食品の基準量の展示を行い、基準量以上の飲食や摂取する食品の種類に偏りがいかなど食生活を振り返り、肥満の予防・改善についての啓発を行った。 <適正体重を維持している人の割合> <ul style="list-style-type: none"> ・20歳代～60歳代の男性 <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度 72.0% 平成30年度 70.9% ・20歳代～60歳代の女性 <ul style="list-style-type: none"> 平成29年度 81.8% 平成30年度 82.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・健診結果説明会や生活習慣病予防講座等で、1日の食品基準量の展示を行い、基準量以上の飲食や摂取する食品の種類に偏りがいかなど食生活を振り返り、肥満の予防・改善についての啓発を行った。 <適正体重を維持している人の割合> R1.12月末現在 <ul style="list-style-type: none"> ・20歳代～60歳代の男性 70.5% ・20歳代～60歳代の女性 82.0%
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、男性の肥満の割合が増えている。 ・食品の基準量の展示を行うことが、自ら食生活を振り返り、具体的な食習慣の改善に結びつくことから、今後も継続した取組が必要である。 ・肥満者の中には、食事以外の嗜好品の摂取状況にも課題があることから、お菓子や清涼飲料水、酒類などの嗜好品等についても具体的なエネルギー量、糖質、脂質、純アルコール量などの成分表示を行い、本人の気づきを促すとともに食習慣の改善に結びつくよう支援していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に、男性の肥満の割合が多い。 ・1日の食品基準量の展示を実施することにより、自ら食生活を振り返り、具体的な食習慣の改善に結びつくことから、今後も継続した取組が必要である。 ・肥満者の中には、食事以外の嗜好品の摂取状況にも課題があることから、菓子や清涼飲料水、酒類などの嗜好品等についても具体的なエネルギー量、糖質、脂質、純アルコール量などの成分表示を行い、本人の気づきを促すとともに食習慣の改善に結びつくよう支援していく必要がある。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(2)-③ 生活習慣病予防事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	健診結果から対象者を設定し、各種教室を開催することにより、生活習慣病予防の普及・啓発を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	各種教室を開催し、生活習慣病の予防の普及・啓発を行う。				
(目標)	生活習慣病の予防や改善のために普段から適正体重や減塩等に気を付けた食生活を実践している人を増やす。 63%以上	65%以上	68%以上	70%以上	72%以上

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	△(事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・動脈硬化の危険因子を持つ特定保健指導該当者等に、糖負荷検査を7コース(1コース2回)、頸動脈エコー・尿中アルブミン検査を5コース(1コース2回)実施。 H30年度参加者:119人 ・妊婦健診結果から将来の血管や臓器の障害を予防するために、おかあさんのための生活習慣病予防セミナーを4コース(1コース1回)実施。 H30年度参加者:15人 ・生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活を実践する市民の割合 食育市民アンケート結果:55.5% 	<ul style="list-style-type: none"> ・動脈硬化の危険因子を持つ特定保健指導該当者等に、糖負荷検査を7コース(1コース2回)、頸動脈エコー・尿中アルブミン検査を5コース(1コース2回)実施予定。R1.12月末現在参加者:60人 ・妊婦健診結果から将来の血管や臓器の障害を予防するために、おかあさんのための生活習慣病予防セミナーを昨年度まで実施していたが、今年度からは個別訪問に切り替え実施している。R1.12月末現在、28人に保健指導を実施。 ・生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気を付けた食生活を実践する市民の割合 食育市民アンケート結果:55.0%
今後の課題・反省点	生活習慣病予防講座に参加した人は、動脈硬化の危険因子(血圧、HbA1c、LDLコレステロール等)の維持、改善にも効果が出ることから、今後も一人でも多くの人に講座に参加してもらえるよう周知の徹底と集団指導だけでなく個別指導も含めた継続した取組が必要。	生活習慣病予防講座に参加した人は、動脈硬化の危険因子(血圧、HbA1c、LDLコレステロール等)の維持、改善にも効果が出ることから、今後も一人でも多くの人に講座に参加してもらえるよう周知の徹底と集団指導だけでなく個別指導も含めた継続した取組が必要。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-①-① 家庭菜園での栽培体験等の推進
事業担当課	農村振興課
取組の概要	家庭菜園での作物栽培体験や男女年齢問わず誰もが家庭で料理することを推奨し、食物に愛着を持ち、生産や調理の苦労や楽しさを感じられるよう啓発する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	イベント参加者等に対し野菜の種を配布するほか、家庭で料理することについてホームページ等で啓発する。				
(目標)	家庭で料理や栽培体験をしている人を増やす。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	△(事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市環境フェア、食育フォーラムにおいて、食育広告入り野菜の種をイベントで配布し、栽培体験のきっかけを提供した。 ・市民農園を運営し、作物を作るきっかけを提供した。 上越市市民農園契約者数(県外居住者含む) 大島ふるさと農園 23人 牧ふれあい農園 5人 三和ふれあい農園 17人 合計 45人 ・家庭菜園などの作物栽培をしている人の割合 食育市民アンケート結果: 38.7% ・料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに郷土料理や旬の地場食材を使用した料理レシピを掲載し、家庭で料理をする一助とした。 ・家庭で料理をしている人の割合 食育市民アンケート結果: 66.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市食育実践セミナーにおいて、「家庭菜園のすすめ」コーナーを設置し、キッチンでできる家庭菜園を提案したほか、食育広告入り野菜の種を配布し、栽培体験のきっかけを提供した。 ・市民農園を運営し、作物を作るきっかけを提供した。 上越市市民農園契約者数(県外居住者含む) 大島ふるさと農園 21人 牧ふれあい農園 5人 三和ふれあい農園 15人 合計 41人 (前年度比4人減) ・家庭菜園などの作物栽培をしている人の割合 食育市民アンケート結果: 37.9% (前年比 0.8ポイント減) ・料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに郷土料理や旬の地場食材を使用した料理レシピを掲載し、家庭で料理をする一助とした。 ・家庭で料理をしている人の割合 食育市民アンケート結果: 68.8% (前年度比 2.6ポイント増)
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・料理や栽培体験をしている人の割合が減少していることから、食に関する体験活動として、料理や栽培体験の楽しさを市ホームページ「上越の食育」や事業を通じて伝える。 ・引き続き、料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに上越市の郷土料理や旬の地場食材を使用したレシピを掲載し、家庭で料理をする一助とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、食に関する体験活動として、料理や栽培体験の楽しさを市ホームページ「上越の食育」を通じて伝えるほか、料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに上越市の郷土料理や旬の地場食材を使用したレシピを掲載し、家庭で料理をする一助とする。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-①-② 食に関するイベント等の実施
事業担当課	農村振興課
取組の概要	親子で参加できるイベント等の事業を通して、食育により子どもが健やかに育つための家庭環境づくりを支援する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	食育フォーラムや親子で参加できる料理教室など、食に関する親子対象の事業を実施する。				
(目標)	食を通じた親子のふれあいの機会を創出する。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・8月20日(月)親子食農体験「上越野菜」振興協議会の主催事業。上越野菜の「上越丸えんびつなす」と「ひとくちまくわ」の収穫、収穫物を使用した料理教室を開催した。親子12組26人が参加。 ・11月17日(土)食育フォーラムin上越 公認スポーツ栄養士による食育講演会のほか、食育クイズや体験、食育活動の展示等を通じ、親子が楽しみながら食について学んだ。1,690人が来場。 	<ul style="list-style-type: none"> ・8月22日(木)親子食農体験教室「上越野菜」振興協議会の主催事業。上越野菜の「なますかぼちゃ」と夏野菜の「トマト」の収穫、収穫物を使用した料理教室を開催した。親子11組23人が参加。 ・11月30日(土)上越市食育実践セミナー2019 料理研究家で栄養士の堀江ひろ子氏による食育講演会、食育体験やクイズラリー、親子郷土料理教室、各機関の食育活動の展示等を通じ、親子で楽しみながら食についての学びを深めた。来場者数740人。 ・令和2年1月25日(土)親子料理教室「上越野菜」振興協議会主催事業。上越野菜の「アスパラ菜」と「ばななかぼちゃ」を使った料理教室を開催した。親子9組20人が参加。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、親子で参加できる食に関する事業を実施する。 ・市が行う親子で参加できる食に関する事業の情報を市ホームページ「上越の食育」に掲載し、市民に情報提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、親子で参加できる食に関する事業を実施する。 ・市ホームページ「上越の食育」掲載に至らなかった事業があったことから、担当者と連絡を密にし、市民への周知に努める。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-①-③ 食生活の改善に必要な情報提供
事業担当課	農村振興課・関係課
取組の概要	国が作成している「食育ガイド」を利用し、食育に関する基礎知識や、日常的な生活の中で一人ひとりが「何を意識して」「どのように食べるべきか」をわかりやすく市民に周知する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	国が示している「食育ガイド」を定期的に学校関係者や食育イベント、健康指導などの食に関連した集会等で配布し啓発する。				
(目標)	市民が食生活の改善に必要な情報を得られる状態にする。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・食育活動に役立ててもらうため、6月の食育月間に併せ、国が示す「食育ガイド」を市内の幼稚園、保育園、小中学校に配布した。 ・上越市環境フェア、食育フォーラムにおいて、該当ブースに配置し、周知を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育活動に役立ててもらうため、6月の食育月間に、国が示す「食育ガイド」、第3次食育推進計画概要版を市内の幼稚園、保育園、小中学校に配布した。 ・上越市食育実践セミナーにおいて、日常の食生活で意識したい点を「みんなの健康健康コーナー」の体験やパネル展示で分かりやすく周知した。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・「食育ガイド」は、食育活動の実践につながる具体的な取組事例が掲載されている。今年度は、配布のみとなったため、次年度以降は第3次上越市食育推進計画と併せ、各種食育活動の場で使用してもらい、活用を図る。 ・市ホームページ「上越の食育」の内容を充実させ、食生活の改善に必要な情報を提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が食生活の改善に必要な情報を得られるよう、市ホームページ「上越の食育」を活用し、食育情報を提供する。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-①-④ 家庭での共食についての啓発活動
事業担当課	農村振興課
取組の概要	家族での共食が、大切なコミュニケーションの場や、箸使いなど食事作法やしつけの重要な場であることを啓発する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	市ホームページやイベントにおいて、家族揃って食事をとることの有益性を啓発する。				
(目標)	市民が家族と共食する回数を週平均11回以上にする。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	△(事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 市ホームページ「上越の食育」において、食を通じたコミュニケーションの大切さについて啓発を行った。 朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 食育市民アンケート結果：平均9回 	<ul style="list-style-type: none"> 市ホームページ「上越の食育」において、食を通じたコミュニケーションの大切さについて啓発を行った。 国の資料を活用し、食育実践セミナーで啓発を行った。 朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数 食育市民アンケート結果：平均9回 (前年度比±0)
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> 市民が家族と共食する回数は、食育市民アンケート結果から、目標値の平均11回に達しなかった。 「家庭での共食」に特化した周知が不足していた。共食の有益性を伝えながら継続的に啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民が家族と共食する回数は、食育市民アンケート結果から、目標値の平均11回に達しなかった。 引き続き、市ホームページ「上越の食育」等を通じ、共食の有益性を伝えながら啓発を行う。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-②-① 保育園・幼稚園・小中学校での食の体験活動
事業担当課	学校教育課・保育課
取組の概要	食に関する様々な体験活動を通して、食に対する興味・関心を持たせる。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。				
(目標)	全ての保育園、幼稚園、小中学校で体験活動を取り入れた食に関する活動を実施する。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての小学校において、教科や総合的な学習と関連付けた栽培活動や農業体験を実施した。 保護者や生産者などと一緒に地域の特色を生かした食に関する活動に取り組んだ。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育園では、畑やプランターでの野菜づくりを行った。また、それらの食材を使ったクッキングなどの体験を通じて、子ども達の食への関心を高めることができた。 	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての小学校において、教科や総合的な学習と関連付けた栽培活動や農業体験を実施した。 保護者や生産者などと一緒に地域の特色を生かした食に関する活動に取り組んだ。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育園では、畑やプランターでの野菜づくりを行った。また、それらの食材を使ったクッキング活動、給食食材としての活用、あそび(スタンプングや重さ当てクイズ等)などの様々な体験を通じて、子どもたちの食への関心を高めることができた。
今後の課題・反省点	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も地域の特色を生かした活動を継続していく。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、保育園では体験活動を取り入れた食に関する活動を継続していく。 	<p>【学校教育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も地域の特色を生かした活動を継続していく。 <p>【保育課】</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、保育園では体験活動を取り入れた食に関する活動を継続し、食に対する興味・関心につなげていく必要がある。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-②-② 家庭や地域とともに進める食に関する教育活動
事業担当課	学校教育課
取組の概要	家庭・地域と連携を図り、児童・生徒が自ら食育を実践できるよう教育活動を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	全ての小中学校で地域の方等を招待した給食試食会や食に関する学校保健委員会を実施する。				
(目標)	児童生徒が栄養バランスのとれた食事や正しい食事マナーの重要性について理解を深める。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 給食試食会や食をテーマにした学校保健委員会を実施し、家庭・地域との連携を図った。 学校保健委員会において協議した内容を「たより」として地域や家庭に発信した。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食試食会や食をテーマにした学校保健委員会を実施し、家庭・地域との連携を図った。 学校保健委員会において協議した内容を「たより」として地域や家庭に発信した。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> 食に関する興味関心を持たせるとともに、食の重要性について理解を深められるよう、地域、家庭との連携を深め、協力体制をつくっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 食に関する興味関心を持たせるとともに、食の重要性について理解を深められるよう、地域、家庭との連携を深め、協力体制をつくっていく。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-②-③ 特色ある食に関する教育活動の推進
事業担当課	学校教育課
取組の概要	それぞれの地域や学校の伝統や文化等の特色をいかした食育推進を支援する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	充実した食育活動を推進するための情報提供等を行う。				
(目標)	地域や学校の伝統や文化等の特色をいかした食育を実践している学校を増加させる。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○ (計画どおりの事業実施)
主な事業実績	・食に関する興味関心を持たせるとともに、食の重要性について理解を深められるよう、地域、家庭との連携を深め、協力体制をつくっていく。	・食に関する興味関心を持たせるとともに、食の重要性について理解を深められるよう、地域、家庭との連携を深め、協力体制をつくっていく。
今後の課題・反省点	・学校や地域の実態に合わせた食の体験活動を継続していく。	・学校や地域の実態に合わせた食の体験活動を継続していく。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-③-① 保健指導事業 食生活改善事業
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	各ライフステージの様々な事業でバランスのとれた食生活の推進(食品の基準量の普及・啓発)を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	各ライフステージで行われる健康教育の中でバランスのとれた食事を摂ることの必要性についての内容を盛り込み啓発をしていく。				
(目標)	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を毎日実践している人を増やす。 全世代 40% 若い世代 35%	全世代 50% 若い世代 40%	全世代 60% 若い世代 45%	全世代 70% 若い世代 50%	全世代 80% 若い世代 55%

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	△(事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期(すくすく赤ちゃんセミナー)、乳幼児期(各乳幼児健診、相談会)、学童期(小中学校血液検査事業、学校保健委員会等)、思春期(高校健康教育)、成人期・高齢期(健診時、健診結果説明会、企業での健康教育、地区健康講座等)において、各ライフステージの特性を踏まえ、バランスのとれた食事を摂ることの必要性について健康教育を実施した。 ・健康教育等で、具体的に何をどれだけ摂取すればよいかを理解できるように、1日の食品の基準量を展示した。 ・主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合 食育市民アンケート結果 全世代：38.0% 若い世代：31.2% 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期(すくすく赤ちゃんセミナー)、乳幼児期(各乳幼児健診、相談会)、学童期(小中学校血液検査事業、学校保健委員会等)、思春期(高校健康教育)、成人期・高齢期(健診時、健診結果説明会、企業での健康教育、地区健康講座等)において、各ライフステージの特性を踏まえ、バランスのとれた食事を摂ることの必要性について健康教育を実施した。 ・健康教育等で、体の状態に合わせ、具体的に何をどれだけ摂取すればよいかを理解できるように、1日の食品基準量を展示した。 ・主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合 食育市民アンケート結果 全世代：40.7% 若い世代：34.1%
今後の課題・反省点	・若い世代から食生活の乱れが見られており、引き続き、各ライフステージにおいて様々な場面での健康教育の実施が必要。	・若い世代から食生活の乱れが見られており、引き続き、各ライフステージにおいて様々な場面での健康教育の実施が必要。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-③-② 日本型食生活の普及活動
事業担当課	農村振興課・関係課
取組の概要	米を中心に多様な農林水産物を食材とした副食で構成され、栄養バランスに優れた「日本型食生活」を促進するため、有効な啓発資材を作成し配布するとともに、様々な媒体を活用してその普及を図る。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	啓発用クリアファイルの作成・配布やイベントやホームページでの周知により、日本型食生活の利点について啓発する。				
(目標)	日本型食生活を実践している人を増やす。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	△(事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 市ホームページ及び食育フォーラムにおいて啓発を行った。特に食育フォーラムでは、食育講演会や北陸農政局の展示ブースにおいて、栄養バランスに優れた日本型食生活の良さを紹介した。 日本型食生活を実践している人の割合 食育市民アンケート結果：77.7% 	<ul style="list-style-type: none"> 市ホームページ「上越の食育」では、バランスのとれた食事、食生活上の指針の項目において啓発を行った。 上越市食育実践セミナーでは、食育講演会や展示コーナーにおいて啓発を行った。特に北陸農政局の展示では、家庭での実践に向けて日本型食生活のメリットや実践方法などを紹介した。 日本型食生活を実践している人の割合 食育市民アンケート結果：76.3% (前年度比 1.4ポイント減)
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> 食育市民アンケートの結果から、目標を達成することができなかった。 日本型食生活の推進に特化した周知が不足していたことから、市ホームページ「上越の食育」や事業を通じ、日本型食生活の有益性を伝え、啓発を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育市民アンケートの結果では目標を達成することができなかった。 引き続き、市ホームページや食育実践セミナーなどを通じ、日本型食生活の有益性を市民に伝え、啓発を継続していく。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-③-③ 国が定める「食育月間」、「食育の日」の普及活動
事業担当課	農村振興課
取組の概要	国が定めている「食育月間」(6月)、「食育の日」(19日)を市民に周知し啓発に努める。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	広報やFM放送、イベントやホームページを活用し、「食育月間」、「食育の日」の普及啓発を行う。				
(目標)	「食育月間」、「食育の日」を知っている人を増やす。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	△(事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<p>○6月の食育月間</p> <ul style="list-style-type: none"> 啓発用のぼり旗を市役所1階ロビー及び農村振興課フロアに掲示したほか、広報上越、FM上越にて啓発を行った。 市職員向け掲示板に、食育月間、食育の日の周知と食生活指針に沿った取組の推進について掲載し周知を図った。 上越教育大学の学生食堂に、上越市の食育推進の取組紹介パネルを展示した。 「食育月間、食育の日」を記載した食育啓発用クリアファイルを4,000部作成し、市内の小学5年生及びイベント時に配布しPRした。 <p>○毎月19日の食育の日</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校給食において、毎月19日を目安に「食育の日献立」を提供し、食を考える機会とした。 公立保育園では、毎月19日を目安に食育集会を実施し、食を考える機会とした。 食育月間、食育の日を知っている人の割合 食育市民アンケート結果：22.1% 	<p>○6月の食育月間</p> <ul style="list-style-type: none"> 啓発用のぼり旗を市役所1階ロビー及び農村振興課フロアに掲示したほか、FM上越にて啓発を行った。 市職員向け掲示板に、食育月間、食育の日の周知と食生活指針に沿った取組の推進について掲載し周知を図った。 上越教育大学の学生食堂に、上越市の食育推進の取組紹介パネルを展示した。 食育月間に合わせ、食育推進に関する啓発物(第3次計画概要版、食育ガイド、食品ロス削減啓発リーフレット)を市内の保育園、幼稚園、小中学校へ配布した。 <p>○毎月19日の食育の日</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎月19日前後に、上越市食育推進キャラクター「もぐもぐジョッピー」が市内の食育情報や食育に関する話などを「もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記」と題し、市ホームページ「上越の食育」と料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページにおいて市民に伝えた。 学校給食において、毎月19日を目安に「食育の日献立」を提供し、食を考える機会とした。 公立保育園では、毎月19日を目安に食育集会を実施し、食について学ぶ機会とした。 食育月間、食育の日を知っている人の割合 食育市民アンケート結果：20.6% (前年度比：1.5ポイント減)
今後の課題・反省点	<p>・食育市民アンケートの結果から「食育月間、食育の日」を知っている人の割合が低かった。食育月間と食育の日は、食育を考える機会であるため、引き続き周知が必要である。</p>	<p>・食育市民アンケートの結果では、「食育月間、食育の日」を知っている人の割合が低く、前年度を下回った。「食育月間と食育の日」を自身の食を考える機会としてもらうためにも、各種情報発信媒体を通じ、引き続き周知を行う。</p>

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(3)-③-④ 地域での共食についての情報提供
事業担当課	農村振興課
取組の概要	地域等で子どもから高齢者まで様々な人たちと食事をする機会を増やすため、地域での共食についての情報を提供する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	市ホームページにおいて、地域で行われている共食の情報が分かるよう掲載する。				
(目標)	地域等で共食したいと思う人が共食する割合を70%以上にする。	地域等で共食したいと思う人が共食する割合を71%以上にする。	地域等で共食したいと思う人が共食する割合を72%以上にする。	地域等で共食したいと思う人が共食する割合を73%以上にする。	地域等で共食したいと思う人が共食する割合を75%以上にする。

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	△(事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支え合い事業(高齢者支援課)の情報を市ホームページに掲載した。(高齢者の憩い及び交流の場として地域支え合い事業を実施しており、13区の一部の会場では昼食を提供し、共食となっている。) ・地域等で共食したいと思う人が共食する割合 食育市民アンケート結果: 65.7% 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支え合い事業(高齢者支援課)の情報を市ホームページに掲載した。(高齢者の憩い及び交流の場として地域支え合い事業を実施しており、13区の一部の会場では昼食を提供し、共食となっている。) ・地域等で共食したいと思う人が共食する割合 食育市民アンケート結果: 70.0% (前年度比: 4.3ポイント増)
今後の課題 ・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・食育市民アンケート結果から、目標を達成することができなかった。 ・市が行う地域での共食の場の情報を、市ホームページ「上越の食育」からも閲覧できるよう改善する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育市民アンケート結果から、目標を達成することができなかった。 ・引き続き、市が行う地域での共食の場の情報や、地域等での共食のメリット等を市ホームページを通じ発信していく。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(4)-① 郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施
事業担当課	社会教育課
取組の概要	地域資源の活用や地域住民のニーズの精査を行いながら、地区公民館において料理教室や食をテーマとする体験講座を実施する。 社会教育事業で実施する食に関する講座の紹介を通じて郷土料理や食文化の周知を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	地区公民館で、郷土料理や食文化をテーマとする講座を実施する。				
(目標)	郷土料理や食文化について理解を深め、その継承や実践について興味・関心を持った参加者の割合を80%以上とする。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○ (計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<p>高田地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・桜とハスを使ったクッキング教室 4回 <p>金谷地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリカリ梅と梅ジャムづくり 1回 <p>和田地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「発酵の町 上越」味噌作り講座 3回 <p>三郷地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「発酵のまち上越」を学ぼう 2回 <p>八千浦地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越野菜で郷土料理教室 3回 <p>柿崎地区公民館黒川分館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きのこ学習会 1回 <p>郷土料理や食文化について理解を深め、その継承や実践について興味・関心を持った参加者の割合 講座アンケート結果：88.4%</p>	<p>金谷地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統保存食づくり 3回 <p>八千浦地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上越野菜で料理教室 3回 <p>大島地区公民館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの郷土料理講座 1回 <p>柿崎地区公民館黒川分館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きのこ学習会 1回 <p>郷土料理や食文化について理解を深め、その継承や実践について興味・関心を持った参加者の割合 講座アンケート結果：95.5%</p> <p>また、11月30日に開催された「上越市食育実践セミナー」において、地域の食文化の継承として「親子郷土料理教室」を開催した。 アンケート結果：100% (事業満足度)</p>
今後の課題 ・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・料理教室は男性の参加者が少なく、男性を対象とした講座を企画しても参加者が集まらず開催できないことがあった。様々な方から参加してもらうために開催日時や内容等について検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の公民館講座の開催は成人対象のみとなったので、青少年・親子を対象とした食育に関する講座を実施したい。 ・「発酵のまち上越」を推進する内容の講座を実施したい。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(4)-① 謙信KIDSプロジェクト
事業担当課	社会教育課
取組の概要	小学生にふるさと上越の魅力ある食材を紹介し、郷土料理に関する体験をさせることを通して、学ぶ意欲やふるさとを愛する心を育成する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	謙信KIDSプロジェクトの23講座28コースのうち、上越の食をテーマにした講座を3講座実施する。	謙信KIDSプロジェクトで実施する講座に、上越の食をテーマとする講座を設ける。			
(目標)	講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合を90%以上とする。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「しよく」の講座(小学校1~3年対象)は3回実施し、1・2回は上越野菜(ひとくちまくわ、えんぴつなす、枝豆等)の生育観察、収穫作業を行った。3回目は収穫した上越野菜を使って調理実習を行った。延べ36人が参加した。 ・「そば」の講座(小学校1~3年対象)は、延べ52人の参加により昨年と同内容で実施した。鎌の使い方などの安全対策を丁寧に指導し、昨年の課題解決を図った。また、「粉ひき」体験を補充し、栽培して収穫された農産物(そばの実)が食品(そば粉)に変化する過程に注目させた。さらに、農研機構北陸研究拠点の研究者へのインタビュー等でビデオを作成し、上越特産のソバが身近な研究施設で開発されたことや作物としてのソバの特徴を楽しみながら理解できるようにした。 ・「食」の講座(小学校4年~6年対象)は3回実施し、上越の食文化「発酵」について学んだ。1回目はみそ作りを体験し、発酵のおもしろ知識を学んだ。2回目は「あま酒」の発酵の秘密を探る、あま酒を使った調理実習を行った。3回目は出来上がった「みそ」を使って調理実習を行った。延べ48人が参加した。 ・講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合 講座アンケート結果：100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・「しよく」の講座(小学校1~3年対象)は3回実施し、1・2回は上越野菜(ひとくちまくわ、えんぴつなす、枝豆等)の生育観察、収穫作業を行った。3回目は収穫した上越野菜を使って調理実習を行った。延べ52人が参加した。 ・「食」の講座(小学校4年~6年対象)は3回実施し、上越の食文化「発酵」について学んだ。1回目はみそ作りを体験し、発酵のおもしろ知識を学んだ。2回目は「あま酒」の発酵の秘密を探る、あま酒を使った調理実習を行った。3回目は出来上がった「みそ」を使って調理実習を行った。延べ56人が参加した。 ・講座のテーマである上越の食について、興味・関心を深めた参加者の割合 講座アンケート結果：97%
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・「しよく」、「食」の講座で取り扱っているのは上越市が取り組んでいる食物であり、継続して取り組む。調理実習が伴うので衛生面、安全面に配慮する必要がある。 ・「そば」の講座では、コメとソバを比較する学習で、双方の穀物としての特徴を深く学習できた。資料やビデオの活用で低学年児童も楽しみながら学習でき、食育に対する成果があったが、講座編成の見直しにより、次年度は実施しない予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「しよく」、「食」の講座で取り扱っているのは上越市が力を入れて取り組んでいる食物であり、継続して取り組む。調理実習を伴うので衛生面、安全面に配慮する必要がある。 ・現在、夏期に屋外で行っている活動は熱中症になる恐れがあるため、時期や場所の変更など、講座内容の見直しが必要である。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(4)-① 「発酵のまち上越」の啓発活動
事業担当課	上越ものづくり振興センター
取組の概要	「発酵のまち上越」を情報発信するとともに、古くから根付き受け継がれてきた発酵食品文化を次世代へ継承する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)		上越の発酵食品をホームページやイベント等で市内外に広く発信するとともに、発酵食品文化を次世代へ継承する。			
(目標)		上越は「発酵のまち」というイメージを持つ市民を増加させる。			

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<p>○上越発酵食品研究会の事務局を担うなど、各種の発酵関連事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやチラシ等で「発酵のまち上越」をPRした。 ・越後・謙信SAKEまつりにおいて、雪むろで熟成させた酒粕や上越産の発酵食品を使用した「雪むろ酒かすラーメン」を販売するとともに、昨年に引き続き、発酵食品のお弁当「サカキン弁当」を販売し、市内外の多くの人に、発酵のまち上越をPRした。 ・食育フォーラムにおいて、みそまる作り体験、醤油味比べ体験を実施した。 ・謙信KIDSプロジェクト「食」の体験学習において、みその仕込み体験や、あま酒を使った料理体験等を実施した。 ・城北中学校で発酵食品の講演を行なった。 ・川上善兵衛生誕150年記念フォーラムにおいて、上越の発酵食品のPRを行った。 ・国民文化祭・にいがた2019での「妙高・上越エリア」のブースで、発酵文化をPRした。 ・全国発酵食品サミットin NAGANOにおいて、上越の発酵食品を販売するとともに発酵のまち上越のPRを行なった。 	<p>○上越発酵食品研究会の事務局を担うなど、各種の発酵関連事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ等で「発酵のまち上越」をPRした。 ・第34回国民文化祭・にいがた2019、第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会の「妙高・上越エリア」において「発酵文化の礎を築いた先人たち」をテーマとした3つのコア事業を共催で実施し、市内外に上越の発酵文化をPRした。 ①発酵食品の食事とあわせて楽しむ発酵リレートーク ②えちごトキめき鉄道の貸し切り列車でワインや地酒と発酵食品の弁当を楽しむ発酵列車 ③越後・謙信SAKEまつりで「発酵の力」パネル展とあわせて「サカキンさんのお弁当」や発酵食品のPR販売 ・越後・謙信SAKEまつりにおいて、昨年に引き続き、雪室貯蔵の酒粕や野菜、上越産の発酵食品などを使用し、改良を重ねた「雪むろ酒かすラーメン」を販売し、市内外の多くの人に発酵のまち上越をPRした。 ・食育実践セミナーにおいて、みそまるづくり体験を実施した。 ・謙信KIDSプロジェクト「食」の体験学習において、みその仕込み体験や、みそを使った料理体験等を実施した。
今後の課題・反省点	「発酵のまち上越」というイメージが浸透しつつあるが、今後も継続したPR活動が必要。	「発酵のまち上越」というイメージが浸透しつつあるが、今後も継続したPR活動が必要。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(4)-② 地場の食品、郷土料理を取り入れた学校給食の推進
事業担当課	教育総務課
取組の概要	給食の献立において、地場の食品、郷土料理等を取り入れるなど、「食」について考える取組みを推進する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	毎月、地場の食品や郷土料理を取り入れた学校給食を提供する。				
(目標)	郷土料理や地場の食品を取り入れた学校給食を通じて、「食」に対する児童生徒の関心を高める。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○ (計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は「ふるさと上越の輝く先人たち～食を通じて郷土の偉人について学ぼう～」をテーマにした食育の日の取組と、地場の食品や郷土料理を取り入れた「ふるさと献立」を合わせて実施し、市内の全公立小中学校(72校)で学校給食を提供した。 ・地場の食材、食育の日の取組と合わせ郷土料理を取り入れた献立の一例 <ul style="list-style-type: none"> 4月 いかの塩こうじやき、おほりの花のっぺい汁 5月 きんのわのあげに、めぎすのケチャップソースがけ 6月 あじのいちじくソースがけ、なつのっぺ 7月 シャークカツ 9月 ハンバーグ赤ワインソース 10月 いわのはらワインのビーフカレー、鶏肉の赤ワイン焼き、なますかぼちゃの炒めもの 11月 鮭の酒かす焼き、酒かす入りみそ汁 12月 おぼろ汁、とりにくのおまざけみそやき 1月 くるまふのあげに、のっぺい汁 2月 さめのごまケチャップソースかけ、上越産大豆入りコロケ、ずいきの炒め煮 3月 めぎすのつみれ汁、塩こうじ入りレタースープ 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は「新潟から2020年東京オリンピック・パラリンピックを応援しよう」をメインテーマとした食育の日の取組と、地場の食品や郷土料理を取り入れた「ふるさと献立」を実施し、市内の全公立小中学校(72校)で学校給食を提供した。 ・食育の日では、4月～11月までをパート1として「第34回国民文化祭・にいがた2019」「第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会」の開催7地域にちなんだ献立を提供した。12月～3月まではパート2として、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて新潟をホストタウンとする国にちなんだ献立を提供。 ・地場産の食材や郷土料理を取り入れたふるさと献立の一例 <ul style="list-style-type: none"> めぎすのつみれ汁 めぎすのフライ甘酒トマトソース めぎすの米粉揚げからみっこソース さめのごまケチャップかけ さけの発酵焼き さけの甘酒みそ焼き 車麩の揚げ煮 車麩の卵とじ煮 ひめたけ汁 春ののっぺい汁 夏ののっぺい汁 おぼろ汁 白玉雑煮 スキー汁 アスパラ菜の三色和え
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと献立」による郷土料理を取り入れた学校給食の実施と地場産の食材による給食提供を引き続き行い、「食」について考える取組を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさと献立」に郷土料理を取り入れた学校給食の実施と地場産の食材による給食提供を引き続き行い、「食」について考える取組を推進する。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(4)-③ 地産地消推進の店認定事業
事業担当課	農村振興課
取組の概要	飲食店や小売店に地域食材を積極的に活用するよう働きかけるとともに、一定基準以上の地域食材を積極的に活用する店舗に対して認証を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	認定事業の周知とともに加入促進を図る。				
(目標)	認定店数を155軒以上にする。	認定店数を160軒以上にする。	認定店数を165軒以上にする。	認定店数を170軒以上にする。	

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	△(事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・推進店の募集、認定により、店舗数は162軒となった。 ・地産地消推進の店が勧める上越食材を使用した料理や商品を対象とした「地産地消推進キャンペーン」を実施し、地産地消の推進と推進店の周知と利用促進を図った。(参加店舗数：32店舗、キャンペーン応募者数：1,301人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月の認定会議において、認定店数は166軒となったが、その後店舗の閉店や辞退により、現在は161軒となっている。 ・「上越野菜」振興協議会が認定する「上越野菜」を使用した料理や商品を対象商品とした「地産地消推進キャンペーン」を8月の1ヶ月間実施し、地産地消の推進と認定店の周知及び利用促進を図った。 ・今年度は、新たな試みとして、多くの参加店舗を利用してもらえようスタンプラリー方式で実施した。(参加店舗数：32店舗、キャンペーン応募件数：283件) ・市民や観光客がどこでも簡単に推進店の情報を収集できるよう、「地産地消推進の店ガイド」を電子データ化するとともに、QRコードを作成し、市ホームページに誘導する仕組みとした。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域食材を使用している店舗に働きかけたことで、目標を達成することができた。 ・地産地消推進キャンペーン応募者のアンケート結果から、市民の地産地消への関心が高いことが分かった。引き続き、市内の小売店及び飲食店等に地産地消の理解を深めてもらい、認定店数の増加を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年度途中で認定店の閉店、辞退が相次いだことから、現在目標達成となっていない。引き続き、地域食材を使用している店舗に働きかけ、年度内の目標達成を目指す。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(5)-① 食育推進関連団体との連携強化
事業担当課	農村振興課・関係課
取組の概要	食育推進関連団体と情報交換や交流を行い連携を強化するとともに、団体間の連携を推進する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	食育推進関連団体による活動を推進し、食育活動の情報収集並びに情報提供を行う。				
(目標)	食育推進ネットワークの会員数を70団体以上とする。	食育推進ネットワークの会員数を80団体以上とする。	食育推進ネットワークの会員数を90団体以上とする。	食育推進ネットワークの会員数を95団体以上とする。	食育推進ネットワークの会員数を100団体以上とする。

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	△(事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 食育推進関連団体である「上越の食を育む会(上越食育推進協議会)」の活動の側面支援を行った。(食育研修交流会の運営協力、料理教室の広報協力等) 食育フォーラムの協働運営により、団体間の連携と情報共有が図られた。 上越の食を育む会登録会員数 65 (企業:30社、団体・学校:22団体、行政:4団体、個人:9人) 	<ul style="list-style-type: none"> 食育推進関連団体である「上越の食を育む会(上越食育推進協議会)」が4月に解散したため、活動の側面支援、連携が図れなかった。 ※食育推進ネットワークの解散により、会員数の測定は不可。 食育実践セミナーなどの食育推進事業において、市内の組織、行政機関、学校、企業と連携し事業を実施した。(連携団体数:15団体)
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> 目標値である食育ネットワーク会員数を80団体以上とすることができなかった。 食育推進関連団体の活動を周知し、ネットワークに参加していない市内の食育に関する組織、団体に連携の協力を呼びかけていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 目標値の対象としていた上越の食を育む会が解散したことから、今後は市内の食育に関する団体の情報を収集し、食育実践セミナーなどで連携できるよう取り組む。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(5)-② 健康づくり推進協議会の開催
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	医療機関や関係機関と連携し、健康や医療の最新の状況について情報交換、意識の共有を図り、食育推進施策にいかす。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	健康づくり推進協議会を年2回開催する。				
(目標)	医療機関や大学等との情報交換から得た知見を、食育関係施策に活用する。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくり推進協議会を年2回開催し、市の健康課題や健康づくり活動等から得られた食生活を含む生活習慣の実態、医療費分析等について、医療機関や大学等関係機関と情報の共有及び今後の活動の方向性について協議を行った。 平成30年3月に策定した「上越市健康増進計画改定版」を今後も健康づくりの指針として、食育推進施策に活用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくり推進協議会を年2回開催し、市の健康課題や健康づくり活動等から得られた食生活を含む生活習慣の実態、医療費分析等について、医療機関や大学等関係機関と情報の共有及び今後の活動の方向性について協議を行った。 平成30年3月に策定した「上越市健康増進計画改定版」を今後も健康づくりの指針として、食育推進施策に活用していく。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き、医療機関や大学等関係機関と市の健康実態や医療の状況について情報交換、意識の共有を図り、その中から得た知見を食育関係施策においても活用できるよう開催していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も引き続き、医療機関や大学等関係機関と市の健康実態や医療の状況について情報交換、意識の共有を図り、その中から得た知見を食育関係施策においても活用できるよう開催していく必要がある。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(6)-① 食育に関する積極的な情報提供
事業担当課	農村振興課・関係課
取組の概要	ホームページ「上越の食育」や広報上越、メディア等を活用し、市内で行われている食育活動や食育イベント、食育に関する啓発事項等を積極的にPRする。また推進計画概要版の作成・配布などにより食育の普及、啓発に努めるとともに共通理解の促進を図る。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	市のホームページへ食育情報の定期的な掲載を行うとともに、推進計画概要版を事業等で配布する。				
(目標)	市民が食育に関する必要な情報を得られる状態にする。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○ (計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<p>○市ホームページ「上越の食育」へ下記内容を新たに掲載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度の地産地消推進の店一覧 ・平成30年度家族の食育レシピコンテスト受賞レシピの紹介 ・各種食育推進事業報告 ・小中学校給食献立表、給食だより (月1回) ・市立保育園での食育活動紹介 (年4回) <p>○料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページに下記内容を新たに掲載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旬の地域食材を使用したレシピの掲載 ・各種食育推進事業の告知 <p>○第3次上越市食育推進計画概要版の配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育月間に市内保育園、幼稚園、小中学校へ配布 ・上越市環境フェア、食育フォーラムで配布 	<p>○もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記の配信</p> <p>今年度新たな取組として、上越市食育推進キャラクター「もぐもぐジョッピー」が、市内の食育情報や食育に関する話などを日記にし、市ホームページ「上越の食育」と料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページを通じて市民に伝えた。</p> <p>○市ホームページ「上越の食育」への掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記 (月1回) ・上越市地産地消推進の店ガイド ・食育推進事業情報 ・小中学校給食献立表、給食だより (月1回) ・市立保育園での食育活動紹介 (年4回) <p>○料理レシピサイト「クックパッド」内の上越市公式ページへの掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旬の地域食材を使用した料理や郷土料理のレシピ ・もぐもぐジョッピーの食育気まぐれ日記 <p>○第3次上越市食育推進計画概要版の配布</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育月間に市内保育園、幼稚園、小中学校に配布 ・食育実践セミナーの農村振興課ブースに設置
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ「上越の食育」を活用し、市民が利用しやすい食育情報を発信していく。 ・市ホームページ「上越の食育」のほか、料理レシピサイト「クックパッド」を利用し、広い世代及び地域に向けた情報発信を行う。 ・第3次上越市食育推進計画概要版については、イベント時等の配布に留まった。今後は、市事業のほか、連携する団体等の事業などあらゆる機会を捉え、啓発に使用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民への食育の浸透は、周知・啓発が重要と考えることから、市ホームページ「上越の食育」や料理レシピサイト「クックパッド」を活用し、広い世代に向けた情報発信を行う。 ・今年度も第3次上越市食育推進計画概要版については、イベント時等の配布に留まった。今後は、市事業のほか、連携する団体等の事業などあらゆる機会を捉え、啓発に使用するよう取組む。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(6)-① 給食だよりの発行による情報提供
事業担当課	教育総務課
取組の概要	毎月、給食だよりを発行し、給食の献立のレシピや旬の食材、地域の食材の紹介などを通して「食」への関心や知識を高める。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	毎月、給食だよりを作成し、保護者へ提供するとともに、ホームページへの掲載を行う。				
(目標)	学校でどのような給食が提供されているか等について保護者をはじめとした市民が知れる状態にする。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の保護者に対し、毎月の給食だよりに通じ、給食に関する情報を継続的に提供した。 ・市ホームページへ給食だよりの掲載を行った。 ・児童生徒14,100人の保護者並びに、広く市民へ情報を提供することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の保護者に対し、毎月の給食だよりに通じ、給食に関する情報(レシピや旬の食材、地域の伝統的な献立等)を継続的に提供した。 ・市ホームページへ給食だよりの掲載を行った。 ・児童生徒13,835人の保護者並びに、広く市民へ情報を提供することができた。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して給食だよりに通じた「学校給食情報」の発信を行っていく。 ・市ホームページ「上越の食育」で給食だよりの掲載を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して給食だよりに通じた「学校給食情報」の発信を行っていく。 ・市ホームページ「上越の食育」で給食だよりの掲載を行っていく。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(6)-② 食育フォーラムの開催
事業担当課	農村振興課・関係課
取組の概要	食育フォーラムを継続的に開催することで、食育活動に対する市民の理解促進を図るほか、食育推進団体同士の情報交換や連携に役立てる。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	日頃の食育活動の発表の場として食育フォーラムを毎年開催する。				
(目標)	来場者数を1,500人以上にする。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	△ (事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<p>○事業名：食育フォーラムin上越</p> <p>○開催日：平成30年11月17日(土)</p> <p>○会 場：上越市市民プラザ</p> <p>○参加者：1,690人</p> <p>内 容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育関連団体等の活動紹介 (31団体、6小中学校の活動内容をパネル展示) ・公認スポーツ栄養士による食育講演会 「公認スポーツ栄養士がアドバイス！朝ごはんのできる負けない体」 ・健康講演会「健康の原点は食と腸にあり」 ・クイズや体験による食育学習 ・料理体験 ・上越の美味しいものコーナー (地場産農産物の試食販売 17団体) ・家族の食育レシピコンテスト表彰式と応募レシピ展示 (作品応募数：27) ・杵つき餅、郷土料理「スキー汁」のふるまい等 	<p>○事業名：上越市食育実践セミナー2019</p> <p>○開催日：令和元年11月30日(土)</p> <p>○会 場：高田公園オーレンブラザ</p> <p>○参加者：740人</p> <p>○内 容：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①食育講演会 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生に向けた食育推進の実践報告 ・料理研究家で栄養士の堀江ひろ子さんによる講演 「食べることは楽しい～食を通じて人生を豊かに～」 ②こどもコーナー <ul style="list-style-type: none"> ・公立保育園の食育活動紹介 ・おいしいおえかきスケッチクック体験 ・食育絵本のおはなし会 ③みんなの健康コーナー <ul style="list-style-type: none"> ・体の基礎づくり応援 ・おにぎりづくり体験 ・我が家の食料自給率チェック ④食品ロス削減コーナー <ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスの現状と削減に向けた取組紹介 (パネル展示と実演) ⑤学校給食コーナー <ul style="list-style-type: none"> ・栄養士による学校給食の紹介 ・学校給食メニューの試食 (車麩のカツ「フッカツ」と切り干し大根の煮なます) ⑥親子郷土料理教室 (笹寿司とのっぺづくり) ⑦発酵のまち上越 (「みそまる」づくり体験) ⑧展示コーナー (小中学校・大学、行政機関等の食育活動紹介と啓発) ⑨その他 <ul style="list-style-type: none"> ・保育士による食育ショー ・食育クイズラリー ・上越市の農家マルシェ、食育弁当の販売
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・過去最高の来場者があり、目標を達成した。 ・「上越の食を育む会(上越食育推進協議会)」が中心となった実行委員会による企画運営により、「朝ごはんから始める元気な一日」をテーマとした内容で、市民が食を考える機会とすることができた。 ・今回の食育フォーラムの課題を踏まえ、今後の食育啓発事業につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで食育の周知を目的に行ってきた「食育フォーラム」から、食育講演会や体験を通じて食育の実践の環を広げることを目的とした「食育実践セミナー」へ移行し、会場を変更して実施した。 ・食育講演会は、世代を超えて食の楽しさを実感できる内容であったが、現在、食育を浸透させることに注力している若い世代や子育て世代の参加が少なかったため、参加してもらえる仕掛けづくりが必要である。 ・食育体験や展示については、今年度の課題を踏まえ、市民が食に関心を持ち、家庭等での実践に結び付く内容を実施していく。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(7)-① 食の安全に関する情報発信
事業担当課	健康づくり推進課
取組の概要	食の安全に関する国・県からの情報や健康被害情報、新潟県が実施している農林水産物等の放射性物質検査結果などを市のホームページや広報誌を活用して情報提供していく。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	食の安全に関する情報等を市のホームページや広報誌など様々な媒体を使い広く情報提供する。				
(目標)	市民が容易に食の安全に関する情報入手できるようにする。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	・市ホームページや広報上越等、様々な媒体を通じて、食中毒の予防等「食の安全」に関する情報提供を行った。	・市ホームページや広報上越等、様々な媒体を通じて、食中毒の予防等「食の安全」に関する情報提供を行った。
今後の課題・反省点	・今後も継続して、適切な時期に適切な情報提供を行い、市民の食に関する不安の解消に努める必要がある。	・今後も継続して、適切な時期に適切な情報提供を行い、市民の食に関する不安の解消に努める必要がある。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(7)-② 農畜産物の表示に関する研修や啓発活動の実施
事業担当課	農政課
取組の概要	安全で安心な農林水産物を自ら選択できる市民の育成を図るため、研修や啓発を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	食品表示の研修会を実施し、食品表示の内容を広く周知する。				
(目標)	食品表示について正しい知識を持った市民を増やす。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○ (計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・「2018食育フォーラム in 上越」において、食品表示に関するパネルや食品サンプルなどを展示し、市民の意識啓発を図った。 <p>【開催日】 平成30年11月17日 (土)</p> <p>【会場】 上越市市民プラザ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「上越市食育実践セミナー2019」において、食品表示に関するパネルや食品サンプルなどを展示し、市民の意識啓発を図った。 <p>【開催日】 令和元年11月30日 (土)</p> <p>【会場】 高田公園オーレンブラザ</p>
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、食育啓発事業の場において、食品表示に関するパネル展示を継続し、食品表示について正しい知識を持った市民の増加に努めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、食育啓発事業の場において、食品表示に関するパネル展示を継続し、食品表示について正しい知識を持った市民の増加に努めていく。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(7)-③ 農林水産物等の放射性物質検査の情報発信
事業担当課	農政課・農林水産整備課
取組の概要	消費者の信頼に応えるため、新潟県等が実施する農林水産物等の放射性物質の検査結果を市民に情報提供する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	必要に応じ、広報及びホームページで検査結果を周知する。				
(目標)	情報発信により農林水産物等に関する不安を解消させる。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	・新潟県が実施している農林水産物等の放射性物質検査の結果について、市ホームページで情報提供を行い、市民の不安解消に努めた。	・新潟県が実施している農林水産物等の放射性物質調査において、放射性物質が検出された場合のみ、県から情報提供があり庁内関係課に情報提供を行っている。(令和元年度は検出なし)
今後の課題・反省点	・引き続き、市ホームページで新潟県が実施している農林水産物等の放射性物質検査の結果を情報提供し、放射性物質に対する不安解消に努めていく。	・県基準値以上の放射性物質が検出された場合は市のホームページなどで市民に広く情報提供を行い、不安解消に努めていく。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(8)-① 地域食材による給食の提供
事業担当課	教育総務課
取組の概要	関係団体、生産者等と連携し、学校給食への地場産食材の利用促進を図る。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	関係団体、生産者等との連携を強化し、地場産食材の利用を促進する。				
(目標)	地場産使用率を向上させる。 使用率16%以上	使用率17%以上	使用率18%以上	使用率19%以上	使用率20%以上

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食における青果物の年間使用量(必要量)を関係団体、生産者に周知し生産協力を依頼するとともに、生産者等からの出荷時期を確認し献立に反映させた。 関係団体と生産者との打合せに出席し、学校給食における地場産野菜について該当地区の情報を提供するとともに、協力と今後の連携について依頼した。 全体の野菜使用量に対しての地場産野菜使用率14.00% 	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食における青果物の年間使用量(必要量)を関係団体、生産者に周知し生産協力を依頼するとともに、生産者等からの出荷時期を確認し献立に反映させた。 関係団体と生産者との打合せに出席し、学校給食における地場産野菜について該当地区の情報を提供するとともに、協力と今後の連携について依頼した。 全体の野菜使用量に対しての地場産野菜使用率19.74%(令和元年12月末現在)
今後の課題 ・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> 地場産野菜の納入体制は関係団体、生産者等との連携を図る中で確立されてきているが、今後も学校給食に地場産野菜の利用が図れるよう生産・納入体制を継続して協議していく必要がある。 積極的に地域の生産者と情報共有を図っていく。 地場産野菜の生産量・品質が気象条件等に左右される中、地場産野菜を安定して提供してもらえるよう関係団体、生産者等に協力をお願いしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 地場産野菜の納入体制は関係団体、生産者等との連携を図る中で確立されてきているが、今後も学校給食に地場産野菜の利用が図れるよう生産・納入体制を継続して協議していく必要がある。 積極的に地域の生産者と情報共有を図っていく。 地場産野菜の生産量・品質が気象条件等に左右される中、地場産野菜を安定して提供してもらえるよう関係団体、生産者等に協力をお願いしていく。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(8)-① 学校給食用野菜産地の育成
事業担当課	農政課
取組の概要	関係団体、生産者と連携し、学校給食用野菜の供給体制の確立を図る。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	学校給食用野菜の生産拡大を支援するとともに、生産者、関係団体と連携した生産供給体制を強化する。				
(目標)	地場産野菜の使用率を向上させる。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○ (計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・学校給食における地場産野菜の使用率が低い地域を重点地区として選定し、学校給食用野菜の生産に係る初度的経費や、機械の導入経費を支援するとともに、生産者やJA、小売店、教育委員会などの関係機関と連携・協力し、生産・供給体制の強化を図った。 ・平成30年11月17日「食育フォーラム」において、地場産野菜の学校給食への利用拡大に関する資料展示を行い、市の方針や生産者の取組事例などを市民等へ広くPRした。 ・全体の野菜使用量に対しての地場産野菜使用率 平成30年度：14.00% 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度まで実施した学校給食用野菜生産体制強化支援事業において、重点地区として位置づけていた区における地場産野菜の使用を推進するため、令和元年6月に市（教育総務課、農政課）と重点4地区の学校栄養士、JAえちご上越が打合せ会議を行い、情報共有や協議、意見交換を行う中で地場産野菜使用量の増加を目指すことを確認した。 ・全体の野菜使用量に対しての地場産野菜使用率 令和元年度：19.74% (2学期末現在) (前年度比 5.74ポイント増の見込み)
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、市（教育総務課、農政課）と重点4地区の学校栄養士、JAえちご上越、生産者が連携し、情報共有や協議、意見交換を行う中で供給体制の見直し及び強化を図り、地場産野菜使用量の増加を目指す。 ・全市的に気象条件等によって野菜の品質や供給量が大きく左右される状況にあることから、安定的な生産・供給が行われるよう、指導機関と連携し、生産者への技術的な支援、指導についても力を入れていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気象条件等によって野菜の品質や供給量が大きく左右される状況にあることから、安定的な生産・供給が行われるよう、指導機関と連携し、生産者への技術的な支援を強化する必要がある。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(8)-② 直売所情報の発信
事業担当課	農政課
取組の概要	地産地消の拠点施設である直売所の情報について広く市民にお知らせし、地産地消の推進を図る。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	農産物直売所マップや新聞等により情報発信を行う。				
(目標)	市内農産物直売所の販売額を増加させる。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○ (計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所の運営強化と魅力アップを図るため、直売所連絡協議会員を対象とした「視察研修会」を実施した。 【日 時】平成30年7月5日(木) 【研修場所】(有)高儀農場(新潟市北区新崎) 【参加者】15名 (直売所連絡協議会員13名、市2名) ・地元新聞に直売所のイベント情報等を掲載し、市民等への周知を行った(年3回)ほか、食育フォーラム等のイベントで農産物直売所マップを配布し、誘客強化を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所連絡協議会員の直売所施設を相互に見学し、意見交換や情報交換を行うことで、新たな発見や意識啓発を促すため「管内直売所視察研修会及び意見交換会」を実施した。 【日 時】令和元年7月12日(金) 【研修場所】あるん畑(合併前上越市)、雪だるま物産館(安塚区)大島青空市場(大島区)、朝日池総合農場「むら市場」(大潟区) 【参加者】12名(直売所連絡協議会員10名、市2名) ・地元新聞に直売所のイベント情報等を掲載し、市民等への周知を行った(年3回)ほか、食育実践セミナー等のイベントで農産物直売所マップを配布し、誘客強化を図った。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地元新聞を活用し、農産物直売所に関する情報発信に努め、各農産物直売所の一層の販売強化を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き地元新聞を活用し、農産物直売所に関する情報発信に努め、各農産物直売所の一層の販売強化を促進する。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(9)-① 園芸振興事業
事業担当課	農政課
取組の概要	地場産野菜の普及のため、関係団体、農業者と連携し、園芸作物の作付拡大、品質向上を図る。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	園芸作物の生産拡大等に係る経費の一部を支援する。				
(目標)	地場産野菜の生産を拡大させる。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸導入に複合経営を推進するため、「えだまめ」及び水稲・えだまめ後作のブロッコリー等の「秋冬野菜」の生産に係る初度的経費の一部を支援した。 ・県事業(農林県単:新規就農者資本装備支援、多角化複合化経営発展支援)を活用し園芸用のパイプハウスや鉄骨ハウスの導入を支援することで、施設園芸による周年栽培の取組拡大を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸導入に複合経営を推進するため、「えだまめ」及び水稲・えだまめ後作のブロッコリー等の「秋冬野菜」の生産に係る初度的経費の一部を支援した。 ・県事業(農林県単:園芸生産促進)を活用し園芸パイプハウス用暖房設備の導入を支援することで、施設園芸による周年栽培の取組拡大を図った。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、水田を高度利用した園芸導入や生産拡大の取組を推進し、農家の所得向上、体質強化を図る必要がある。 ・近年、天候不順や長雨の影響により、収量や品質の低下といった事案が見られることから、天候に応じた適切な栽培管理の徹底を啓発する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、水田を高度利用した園芸導入や生産拡大の取組を推進し、農家の所得向上、体質強化を図る必要がある。 ・水田での取り組みとなるため、安定した収量や品質を確保するためには、ほ場の排水対策を適切かつ重点的に実施することが重要であり、県農業普及指導センターやJAと連携して技術的な指導を実施し、適切な栽培管理の徹底を啓発する必要がある。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(9)-② 農林漁業体験活動等の情報提供
事業担当課	農村振興課
取組の概要	市内で行われている農林漁業体験活動等の情報を市民が必要な時に容易に入手できるように、情報提供の体制を充実させる。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	市ホームページや広報上越等を通じ、農林漁業体験活動についての情報を発信する。				
(目標)	市民が容易に農林漁業体験に関する情報を入手できるようにする。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○ (計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ「上越の食育」では、『食育体験メニュー』として越後田舎体験推進協議会及びにいがたグリーン・ツーリズムの取組を紹介した。 また、市内のNPO法人等が実施するイベント情報を提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページ「上越の食育」では、『食育体験メニュー』として越後田舎体験推進協議会及びにいがたグリーン・ツーリズムの取組を紹介した。 また、市内のNPO法人等が実施するイベント情報を提供した。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、市ホームページで紹介している団体以外の情報も提供できるよう、情報収集を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、市ホームページで紹介している団体以外の情報も提供できるよう、情報収集を進める。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(9)-③ 都市と農村の交流促進
事業担当課	農村振興課
取組の概要	こだわりを持った地域農産物の購入や市民農園等での農作業体験を楽しみとする都市住民に、食や農への認識を深める機会を広く提供し、都市と農村の交流活動を促進する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	市民農園の貸し付けと農作業体験交流を実施するとともに、都市生協の組合員等による農作業体験事業・交流事業を実施する。				
(目標)	都市との交流体験人数を361人以上とする。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	△(事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 市内の3つの市民農園を契約している首都圏居住者：20人 首都圏生協パルシステム東京の組合員が当市を訪れ、田植えや稲刈りといった農業体験のほか、酒仕込みや笹寿司づくりといった地域の食に触れる体験を行った。また、上越市から講師が出向き、都内においてそば打ち体験や味噌づくり、棚田米の学習会を行い、産地と生協組合員との交流が図られた。 交流人数：339人 東京農工大学のファームステイ、法政大学0Bと川谷地区との交流などの民間交流を行った。(交流人数：35人) 	<ul style="list-style-type: none"> 市内の3つの市民農園を契約している首都圏居住者：21人 首都圏生協パルシステム東京の組合員が当市を訪れ、田植えや稲刈りといった農業体験のほか、酒仕込みや笹寿司づくりといった地域の食に触れる体験を行った。また、上越市から講師が出向き、都内においてそば打ち体験や味噌づくり、棚田米の学習会を行い、産地と生協組合員との交流が図られた。 交流人数：292人(R1.12月末現在。3月15日開催の新酒完成会の人数は見込数。) 東京農工大学のファームステイによる民間交流。(交流人数：7人)
今後の課題 ・ 反省点	<ul style="list-style-type: none"> 都市との交流体験人数は394人で目標を達成した。 特に「食料と農業に関する基本協定」に基づいた首都圏生協組合員との交流事業は、体験内容の固定化が見られることから、上越市ならではの新たな農林漁業体験を検討するなどし、交流人口を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 3月に首都圏生協パルシステム東京の交流事業が残っているが、都市との交流体験人数は320人(R1.12月末現在)で目標を達成しない見込み。 要因としては、首都圏生協パルシステム東京との交流事業(東京開催)参加者の減、昨年度まで行われていた法政大学0Bと吉川区川谷地区との民間交流が行われなくなったことが挙げられる。 上越市の農林漁業体験をPRするためにも、魅力ある体験を検討し、交流人口を増やす。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(10)-① 多面的機能支払（生物多様性保全の推進）
事業担当課	農林水産整備課
取組の概要	多面的機能支払に取り組む地区において、生物多様性保全の推進に資する活動（生物の生息状況の把握、水田を活用した生息環境の提供等）を行うことにより、食料生産環境への理解の促進を図る。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	生物多様性保全の内容を活動組織に説明し、取組の推進を図る。				
(目標)	取組組織数を41以上とする。	取組組織数を42以上とする。	取組組織数を43以上とする。	取組組織数を44以上とする。	取組組織数を45以上とする。

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	○	○（計画どおりの事業実施）
主な事業実績	・生物多様性保全の活動について、生物の生息状況の把握、生物多様性の保全に配慮した施設の適正管理、水田を活用した生息環境の提供等に取組む活動組織は43組織となり、目標を達成した。	・生物多様性保全の活動について、生物の生息状況の把握、生物多様性の保全に配慮した施設の適正管理、水田を活用した生息環境の提供等に取組む活動組織は45組織となり、目標を達成した。
今後の課題・反省点	・次年度以降、目標の達成に向け、研修会や実績確認の際の相談を通じ、当該活動の維持及び新たな取組みを推進していく。	・次年度以降、目標の達成に向け、研修会や実績確認の際の相談を通じ、当該活動の維持及び新たな取組みを推進していく。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(10)-① 環境保全型農業直接支援対策
事業担当課	農政課
取組の概要	自然環境への負荷軽減や安全な農産物に対する消費者ニーズに応えるため、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動を実践する農業者等を支援することにより、環境保全型農業にかかる技術の蓄積や地域への波及を目指す。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	化学肥料及び化学合成農薬の使用を5割以上低減する取組とセットで行われる地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動及び有機農業に取り組む農業者等を支援する。				
(目標)	取組組織数及び面積を拡大させる。				
	87組織 以上 1,410ha 以上	88組織 以上 1,420ha 以上	89組織 以上 1,440ha 以上	90組織 以上 1,460ha 以上	91組織 以上 1,473ha 以上

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	△(事業に取り組んだが成果が不十分)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ■環境保全型農業直接支払交付金の交付対象面積は、当初見込んだ1,374haから443ha減の931haとなった。 【面積減の主な理由】 ・カバークロープ、堆肥の施用 気象条件等により、取組の申請はしたものの履行できなかったほ場があったため。 ・冬期湛水管理 ほ場の白鳥被害により取止めたため。 稲刈り時期が遅くなり、湛水できず取止めたため。 ・国際水準GAPの実施 研修を受講しなかったため。 ■新たにに取り組む組織が2組織あり、交付金対象の取組組織は、64組織となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■環境保全型農業直接支払交付金の交付対象面積は、当初見込んだ1,231haから267ha減の964haとなる見込み。 【面積減の主な理由】 ・カバークロープ 長雨によりほ場状態が悪く、カバークロープの種子を播種できず取りやめたため。 ・堆肥の施用 堆肥の散布機械の故障により散布が出来ず取りやめたため。 ・冬期湛水管理 干ばつ等により取水措置を講じることができず、取り止めたため。 ・国際水準GAPの実施 負担が大きく取りやめたため。 ・5割低減栽培 気象条件等により化学肥料の投入量が増え、5割低減栽培が行えず、取り止めたため。 ■交付金対象の取組組織は、57組織となる見込み。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・制度説明会を開催するほか、制度周知チラシの配布することにより、農業者へのより一層の制度の浸透を図り、取組面積を拡大する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型農業の取組は、近年の天候不順の影響により、当初計画どおりに取り組めないほ場が毎年発生しており、このような状態が続くと、今後、取組の衰退が懸念される。 ・令和2年度から始まる2期対策に向けて、制度説明会の開催や周知チラシの配布により、農業者へのより一層の制度の浸透を図り、取組面積を拡大する。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(10)-② 桑取川魚の森づくり事業
事業担当課	農林水産整備課
取組の概要	上越地域の豊かな川や海の恵みを今後も引き続き享受し将来に伝えられるよう、良質な水環境の保全を図る根元となる豊かな森林を守り育てる活動を行う。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	年2回、下草刈り等の森林保育活動を行う。				
(目標)	参加団体を13団体以上、参加人数を170人以上にする。				

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	△	○(計画どおりの事業実施)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体から協力を得て、7月5日(木)と10月6日(土)の2回、下草刈りやつる切り、森の遊び場の整備(木材チップの敷き均し)など森林の保育活動を実施した。 10月6日の活動には、漁業関係者や地元町内会、協賛企業など11団体、145名の皆さんから参加していただいた。 2回の合計参加者数は185人。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係団体から協力を得て、7月4日(木)と10月5日(土)の2回、下草刈りやつる切り、森の遊び場の整備(木材チップの敷き均し)など森林の保育活動を実施した。 10月5日の活動には、漁業関係者や地元町内会、協賛企業など16団体、146名の皆さんから参加していただいた。 2回の合計参加者数は186人。
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> 木の生育には相当な時間を要するため、引き続き関係者の協力を得ながら保育活動を実施していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 木の生育には相当な時間を要するため、引き続き関係者の協力を得ながら保育活動を実施していく必要がある。

令和元年度上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理表

事業No.及び事業名	(10)-③ 食品ロス削減に関する啓発活動
事業担当課	農村振興課
取組の概要	資源の有効活用や環境負荷の低減はもとより、食の大切さを再認識することにもつながるため、家庭や外食時における食品ロスの削減方法を啓発する。

★年度別計画

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
(事業計画)	市ホームページやイベントにおいて食品ロス現況や削減のための方策を周知する。				
(目標)	食品ロス削減のために何らかの行動している人を72%以上にする。	食品ロス削減のために何らかの行動している人を74%以上にする。	食品ロス削減のために何らかの行動している人を76%以上にする。	食品ロス削減のために何らかの行動している人を78%以上にする。	食品ロス削減のために何らかの行動している人を80%以上にする。

★取組状況

	平成30年度	令和元年度
目標達成状況	◎	◎(計画以上に成果が挙げた)
主な事業実績	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市環境フェアでは、環境問題と食品ロス削減を関連付けて周知した。 ・食育フォーラムでは、食品ロス削減に向けた方策を紹介し啓発を行った。 ・上越市生活環境研修会において「食の宝庫上越 おいしく残さず食べよう! 20・10運動」の取組を紹介し、研修会出席者の各取組につなげた。 ・食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合 食育市民アンケート結果: 79.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市環境フェアにおいて、廃棄物のリサイクルと食品ロス削減を関連付けて周知した。 ・上越市食育実践セミナーにおいて、「食品ロス削減コーナー」を設け、食品ロスの現状と削減に向けた家庭でできる取組例や、宴会時の食品ロス削減運動「食の宝庫上越 おいしく残さず食べよう! 20・10運動」をパネル展示で紹介したほか、講師によるミニ講話と調理例の紹介と試食を行い、来場者が食品ロスについて理解を深めた。 ・食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の割合 食育市民アンケート結果: 85.2% (前年度比: 6.1ポイント増)
今後の課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスの問題は全国的にも課題になっていることもあり、市民の関心が高く、実際にとりくんでいる人も多い。引き続き、具体的な取組例を提示し、周知を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品ロスの問題は、各メディアで大きく取り上げられていることもあり、市民の認知度は高く、実際に取り組んでいる人の割合も増加している。引き続き、「もったいない」の観点から、宴会時の食品ロス削減運動や、家庭でできる具体的な取組例を提示し周知を行う。

令和元年度 上越市食育推進実施計画(アクションプラン)進捗管理一覧表

基本方針	No.	事業名	目標達成状況		担当課
			H30	R1	
家庭を中心に子どもの時から生涯にわたり食を通じた心身の健康づくりを推進します	(1)-①	母子保健事業(すくすく赤ちゃんセミナー)	○	○	健康づくり推進課
	(1)-②	乳幼児期の食育推進	△	△	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
	(1)-③	学校における食育の推進	○	○	学校教育課
	(1)-④	思春期・青年期の食育の推進	○	○	健康づくり推進課・学校教育課・農村振興課
	(1)-⑤	保健指導事業	○	○	健康づくり推進課
	(1)-⑥	保健指導事業	△	○	健康づくり推進課
	(1)-⑦	母子保健事業、保健指導事業	△	△	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
	(1)-⑧	歯科保健事業の推進	△	△	健康づくり推進課・保育課・学校教育課
	(1)-⑨	健康づくり支援店の拡大	◎	◎	健康づくり推進課
	(1)-⑩	身体機能維持支援事業	△	○	健康づくり推進課
	(2)-①	保健指導事業	○	○	健康づくり推進課
	(2)-②	保健指導事業	△	△	健康づくり推進課
	(2)-③	生活習慣病予防事業	△	△	健康づくり推進課
	(3)-①-①	家庭菜園での栽培体験等の推進	△	△	農村振興課
	(3)-①-②	食に関するイベント等の実施	○	○	農村振興課
	(3)-①-③	食生活の改善に必要な情報提供	○	○	農村振興課・関係課
	(3)-①-④	家族での共食についての啓発活動	△	△	農村振興課
	(3)-②-①	保育園・幼稚園・小中学校での食の体験活動	○	○	学校教育課・保育課
	(3)-②-②	家庭や地域とともに進める食に関する教育活動	○	○	学校教育課
	(3)-②-③	特色ある食に関する教育活動の推進	○	○	学校教育課
(3)-③-①	保健指導事業、食生活改善事業	△	△	健康づくり推進課	
(3)-③-②	日本型食生活の普及活動	△	△	農村振興課・関係課	
(3)-③-③	国が定める「食育月間」、「食育の日」の普及活動	△	△	農村振興課	
(3)-③-④	地域での共食についての情報提供	△	△	農村振興課	
まち食育の活動の文化を推進し継承し	(4)-①	郷土料理、食文化の普及を推進する講座の実施	○	○	社会教育課
	(4)-①	謙信KIDSプロジェクト	○	○	社会教育課
	(4)-①	「発酵のまち上越」の啓発活動	○	○	上越ものづくり振興センター
	(4)-②	地場の食品、郷土料理を取り入れた学校給食の推進	○	○	教育総務課
	(4)-③	地産地消推進の店認定事業	○	△	農村振興課
まち食育で推進環境づくりに整備と情報共有	(5)-①	食育推進関連団体との連携強化	△	△	農村振興課・関係課
	(5)-②	健康づくり推進協議会の開催	○	○	健康づくり推進課
	(6)-①	食育に関する積極的な情報提供	○	○	農村振興課・関係課
	(6)-①	給食だよりの発行による情報提供	○	○	教育総務課
	(6)-②	食育フォーラムの開催	○	△	農村振興課・関係課
	(7)-①	食の安全に関する情報発信	○	○	健康づくり推進課
	(7)-②	農畜産物の表示に関する研修や啓発活動の実施	○	○	農政課
	(7)-③	農林水産物等の放射性物質検査の情報発信	○	○	農政課・農林水産整備課
業食への活動の推進により上越の農林漁	(8)-①	地域食材による給食の提供	△	○	教育総務課
	(8)-①	学校給食用野菜産地の育成	○	○	農政課
	(8)-②	直売所情報の発信	○	○	農政課
	(9)-①	園芸振興事業	○	○	農政課
	(9)-②	農林漁業体験活動等の情報提供	○	○	農村振興課
	(9)-③	都市と農村の交流促進	○	△	農村振興課
	(10)-①	多面的機能支払(生物多様性保全の推進)	○	○	農林水産整備課
	(10)-①	環境保全型農業直接支援対策	△	△	農政課
	(10)-②	桑取川魚の森づくり事業	△	○	農林水産整備課
	(10)-③	食品ロス削減に関する啓発活動	◎	◎	農村振興課

総括表

達成状況	事業数	
	H30	R1
◎・・・計画した以上に成果が挙げた	2	2
○・・・計画どおりの事業を実施した	28	29
△・・・計画された事業に取り組んだが成果が不十分だった	17	16
×・・・計画した事業を行わなかった	0	0

第3次上越市食育推進計画指標項目の取組状況一覧

令和2年2月6日
上越市食育推進会議
資料 NO. 3

改善 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

令和元年12月末現在

【基本方針1】家庭を中心に子どもの時から生涯にわたり食を通じた心身の健康づくりを推進します

指標項目		策定時 (H28)	最新値 (R1)	策定時との比較	目標値 (R3)	
1	朝食を欠食する市民の割合（全く食べない+あまり食べない）	小学生	3.3%	3.4%	↘	0%
		中学生	5.0%	5.2%	↘	0%
		若い世代（20～39歳）	12.3%	13.3%	↘	6%
2	虫歯のない児童・生徒の割合	3歳	87.4%	92.6% (H30年度データ)	↗	90%
		12歳	84.7%	88.6% (H30年度データ)	↗	86%
		17歳	63.1%	73.3% (H30年度データ)	↗	65%
3	ゆっくりよく噛んで食べる市民の割合	63.9%	43.4%	↘	70%	
4	健康づくり支援店数	222軒	249軒	↗	236軒	
5	適正体重を維持している市民の割合	20歳代～60歳代の男性	72.9%	70.5% (R元年12月現在)	↘	75%
		20歳代～60歳代の女性	83.3%	82.0% (R元年12月現在)	↘	85%
6	生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等につけた食生活を実践する市民の割合	61.5%	55.0%	↘	72%	
7	朝食または夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数	平均10回	9回	↘	平均11回	
8	普段の食生活の中で食べることを楽しんでいる市民の割合	81.5%	84.1%	↗	90%	
9	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上ほぼ毎日食べている市民の割合	全世代	34.6%	40.7%	↗	80%
		若い世代（20～39歳）	31.1%	34.1%	↗	55%
10	地域等で共食したいと思う人が共食する割合	68.9%	70.0%	↗	75%	

【基本方針2】食育活動の推進により地域の食文化を継承します

指標項目		策定時 (H28)	最新値 (R1)	策定時との比較	目標値 (R3)
1	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、伝えている市民の割合	40.8%	71.9%	↗	50.0%
2	地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承している若い世代（20歳～39歳）の市民の割合	46.3%	41.8%	↘	60.0%
3	地域食材を積極的に活用する飲食店（地産地消推進の店）の認証店数	151軒	161軒	↗	170軒

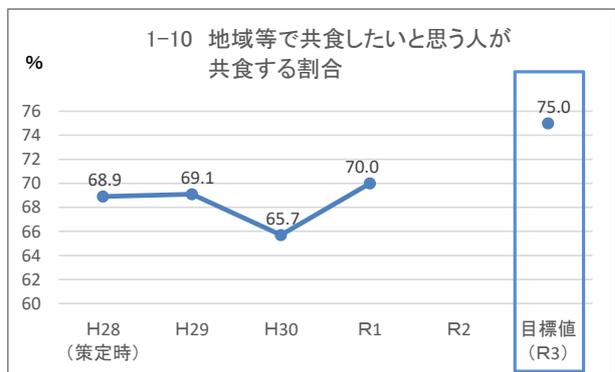
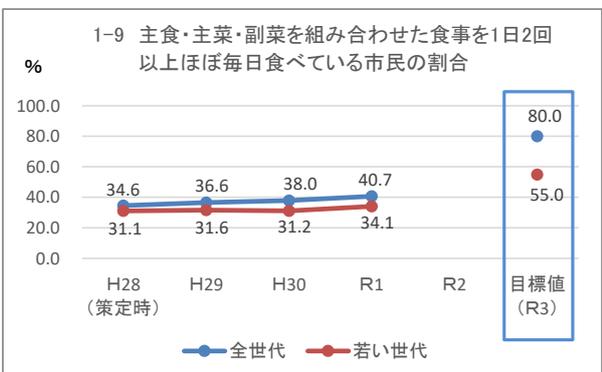
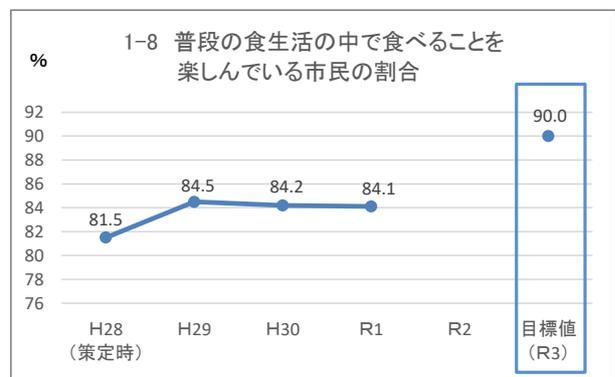
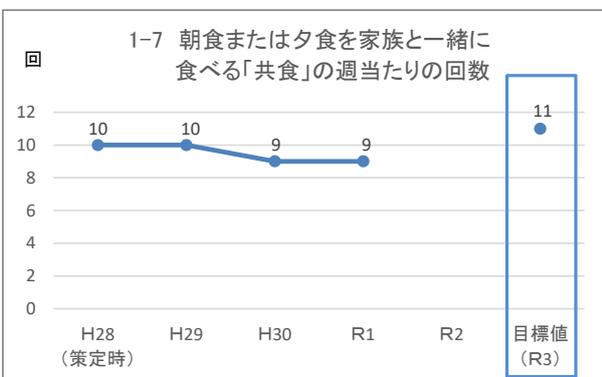
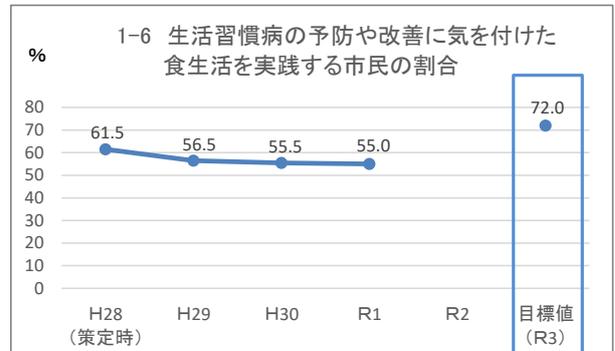
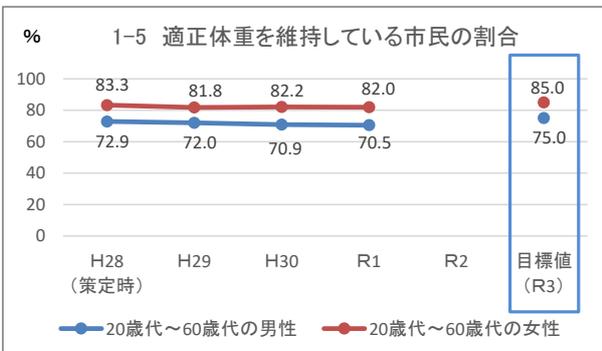
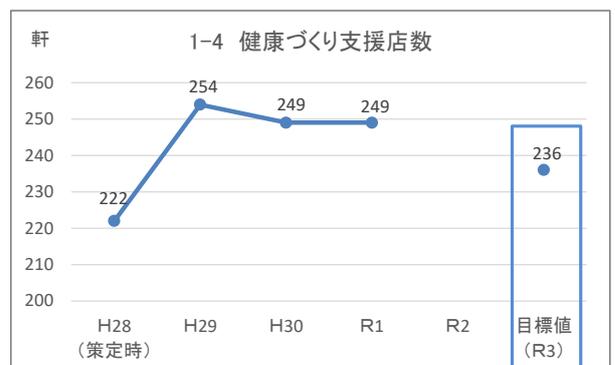
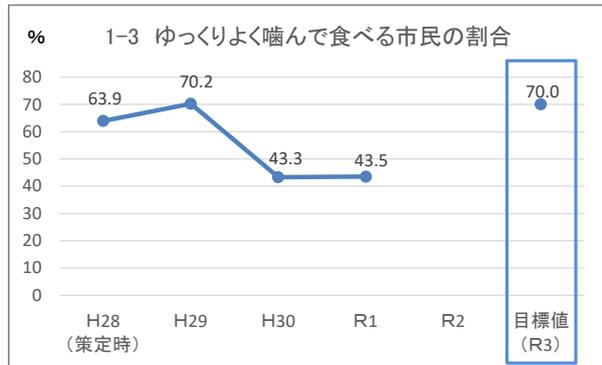
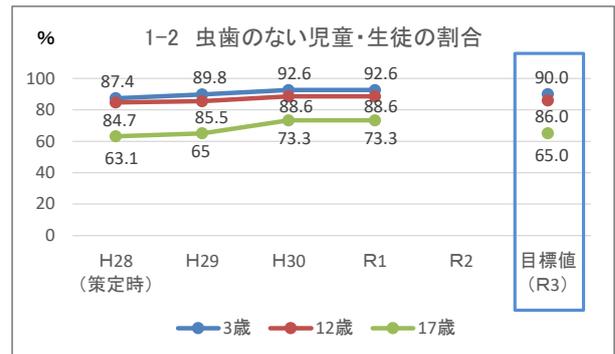
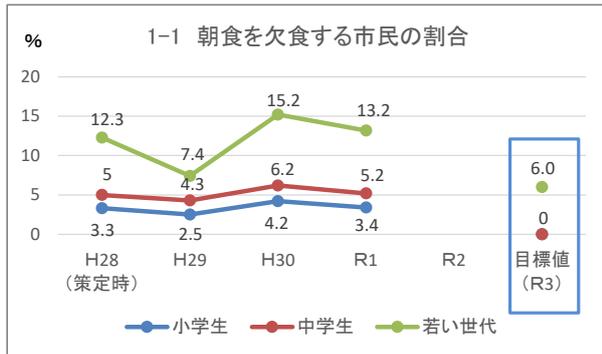
【基本方針3】食育推進体制の整備と情報を共有できる環境づくりを推進します

指標項目		策定時 (H28)	最新値 (R1)	策定時との比較	目標値 (R3)	
1	食育推進ネットワーク（登録）会員数	64	— ※食育推進ネットワーク解散により測定不可	↘	100	
2	保護者や生産者と一緒に食に関する学習会等を実施している小学校の割合	全小学校	全小学校	→	全小学校	
3	食育に関心を持っている市民の割合	72.1%	76.9%	↗	90.0%	
4	食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合	全世代	66.8%	50.5%	↘	90.0%
		若い世代（20～39歳）	48.4%	42.5%	↘	70.0%

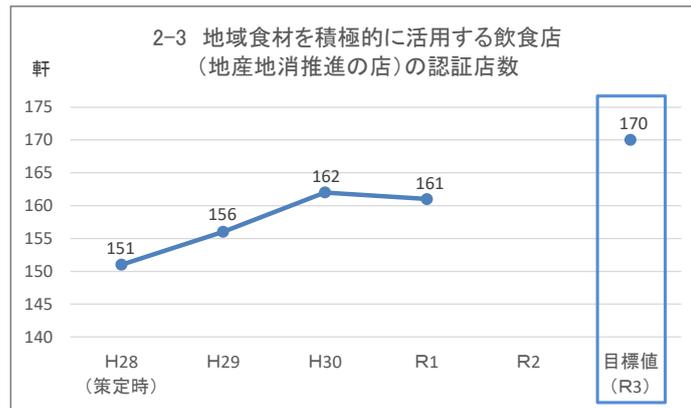
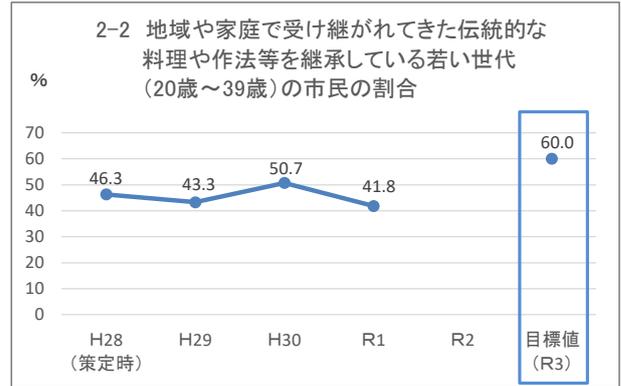
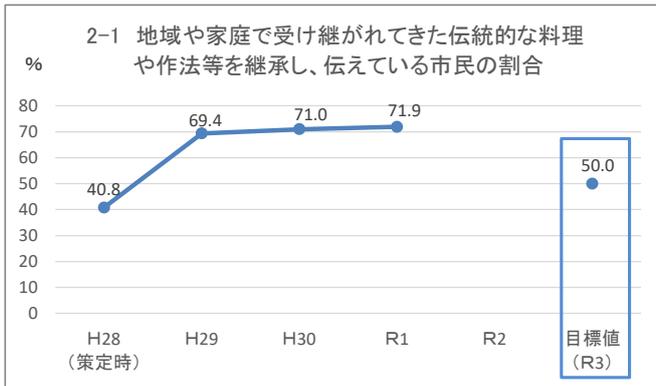
【基本方針4】食育活動の推進により上越の農林漁業への理解を促進します

指標項目		策定時 (H28)	最新値 (R1)	策定時との比較	目標値 (R3)
1	学校給食で地場産物（青果物）を使用する割合	13.6%	19.7%	↗	20%
2	野菜や米づくりなどの農業体験を行っている小学校の数	全小学校	全小学校	→	全小学校
3	環境保全型農業に積極的に取り組む組織数及び取組面積	82組織 1,157ha	57組織 964ha (R元年12月現在)	↘	91組織 1,473ha
4	学校給食における食べ残しの割合	1.50%	1.34%	↗	1.50%
5	食品ロス削減のために何らかの行動をしている市民の割合	70.5%	85.2%	↗	80%

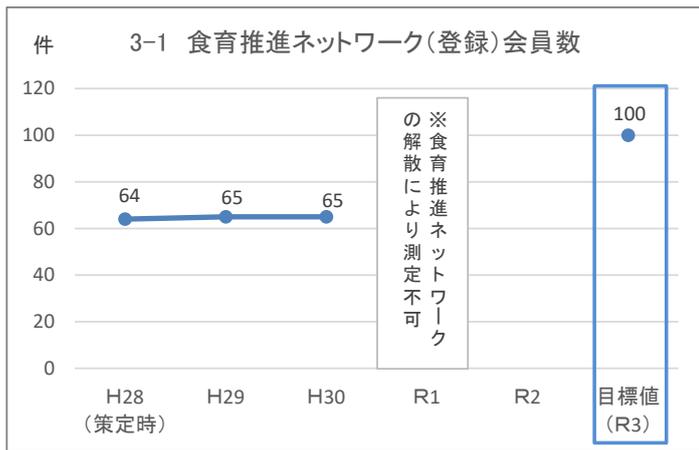
第3次上越市食育推進計画指標項目の取組状況の推移【基本方針1】



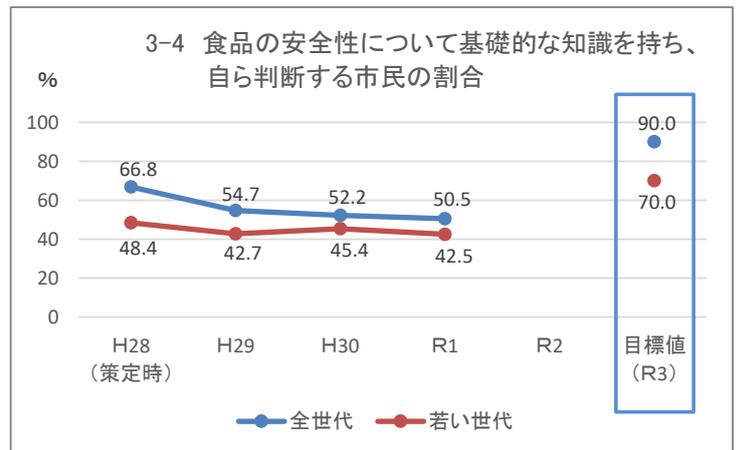
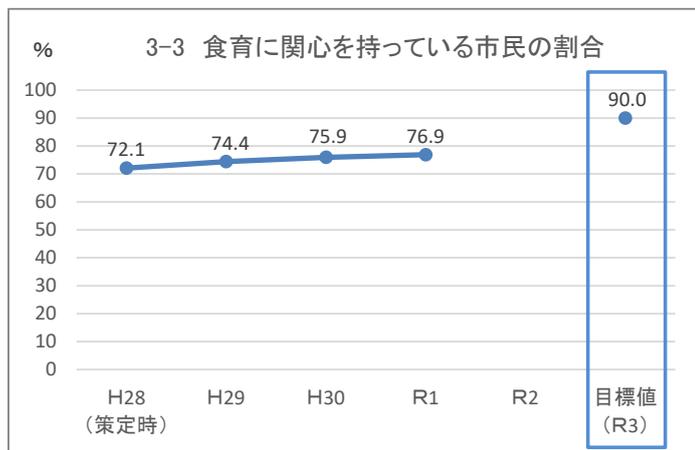
第3次上越市食育推進計画指標項目の取組状況の推移【基本方針2】



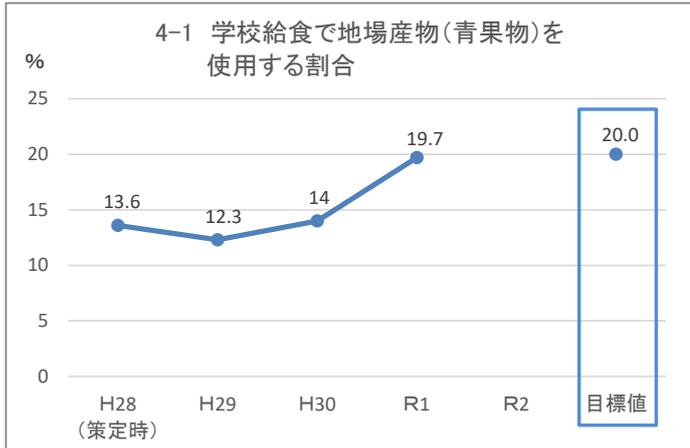
第3次上越市食育推進計画指標項目の取組状況の推移【基本方針3】



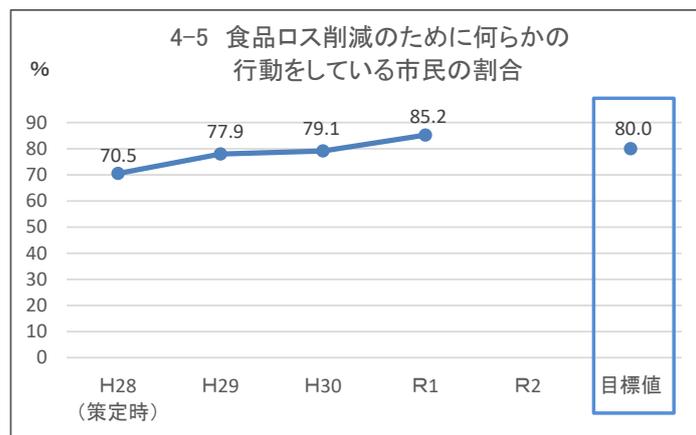
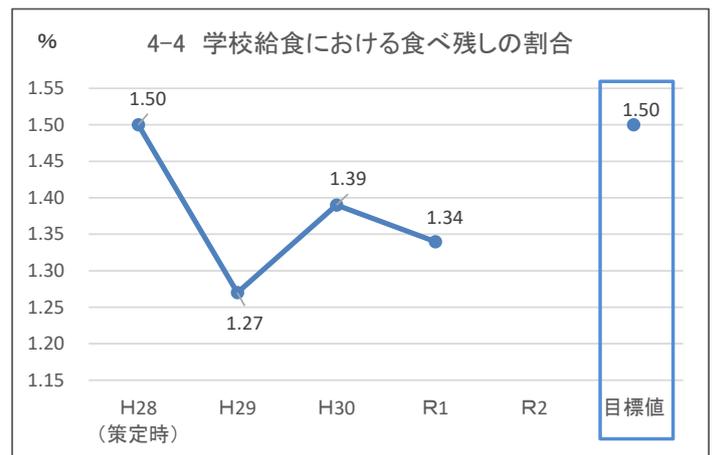
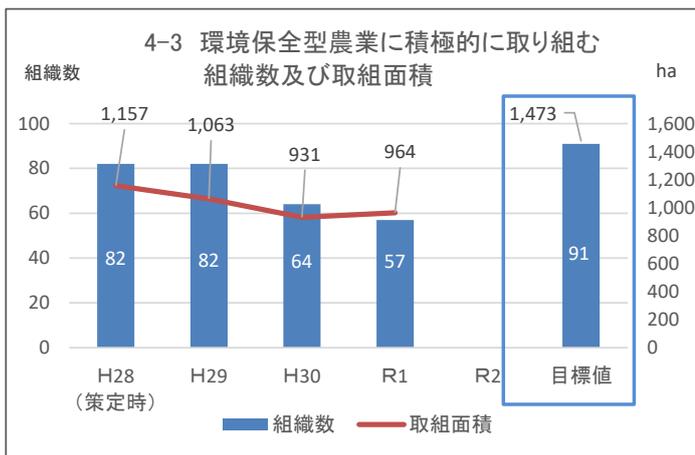
※ 3-2「保護者や生産者と一緒に食に関する学習会等を実施している小学校の割合」は、H28年度からR1年度まで全小学校で推移。



第3次上越市食育推進計画指標項目の取組状況の推移【基本方針4】



※ 4-2「野菜づくりなどの農業体験を行っている小学校の数」は、H28年度からR1年度まで**全小学校**で推移。



令和元年度「食育に関する市民アンケート」調査結果

■調査目的 市民の食育に対する関心や知識の現状と食育を実践している市民の割合を把握し、今後も全市民的運動として食育を推進していく上での施策の参考とする。

■調査期間 令和元年12月13日(金)～令和2年1月6日(月) 25日間

■調査対象者 上越市の住民基本台帳に登録されている満18歳以上の市民3,000人を無作為抽出

■調査方法 郵送によるアンケートの配布ならびに回収

■回収数・回収率 □回収数 1,192 (平成30年度1,210人 18人減)

□回収率 39.7% (平成30年度40.3% 0.6ポイント減)

■回答者の構成(Q1)

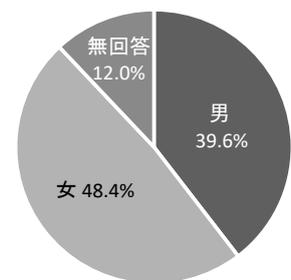
年齢

年齢層	人数	%	H30割合 (%)
18～19歳	10	0.8%	1.0%
20～29歳	104	8.7%	11.2%
30～39歳	169	14.2%	12.1%
40～49歳	176	14.8%	14.6%
50～59歳	220	18.5%	16.6%
60～69歳	289	24.2%	24.5%
70歳以上	216	18.1%	19.3%
無回答	8	0.7%	0.7%

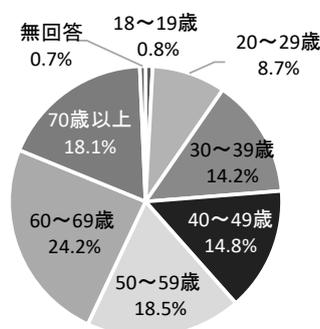
性別

性	人数	%	H30割合 (%)
男	472	39.6%	39.3%
女	577	48.4%	51.2%
無回答	143	12.0%	9.5%

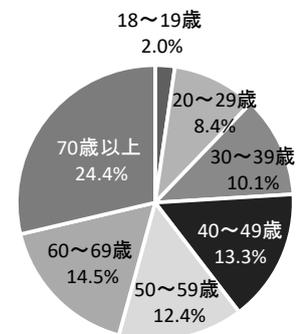
<回答者の性別>



<回答者の年齢>



<参考:上越市の年齢構成比>



【アンケート調査結果の記載方法について】

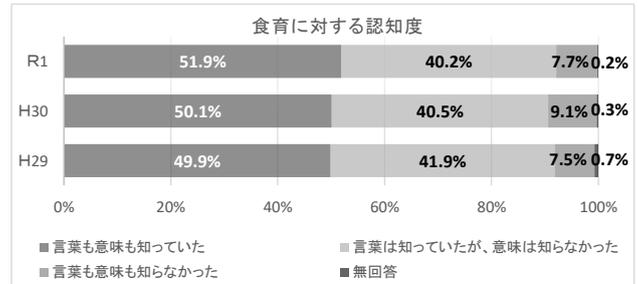
1. 表中の「n」は有効回答者総数を示し、各選択肢の比率算出の基礎となっている。
2. 表中の比率(%)は小数点第2位を四捨五入しているため、個々の選択肢の比率の合計が100%にならない場合がある。

Q2:あなたは「食育」という言葉やその意味を知っていましたか。(1つだけ○)

n = 1,192

	H29	H30	R1	
ア 言葉も意味も知っていた	49.9%	50.1%	619	51.9%
イ 言葉は知っていたが、意味は知らなかった	41.9%	40.5%	479	40.2%
ウ 言葉も意味も知らなかった	7.5%	9.1%	92	7.7%
無回答	0.7%	0.3%	2	0.2%

「言葉も意味も知っていた」、「言葉は知っていたが、意味は知らなかった」人の割合:92.1%
 ※参考: H30食育市民アンケート結果:90.6%(1.5ポイント増)

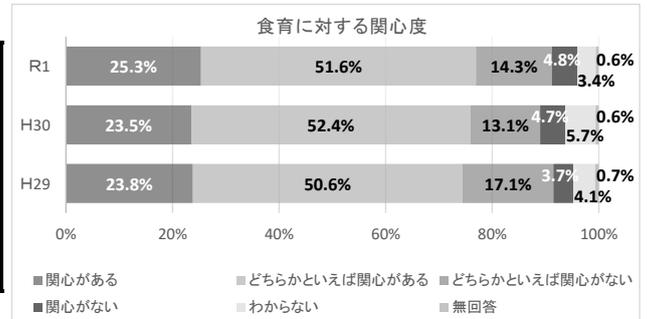


Q3:あなたは「食育」に関心がありますか。(1つだけ○)

n = 1,192

	H29	H30	R1	
ア 関心がある	23.8%	23.5%	302	25.3%
イ どちらかといえば関心がある	50.6%	52.4%	615	51.6%
ウ どちらかといえば関心がない	17.1%	13.1%	170	14.3%
エ 関心がない	3.7%	4.7%	57	4.8%
オ わからない	4.1%	5.7%	41	3.4%
無回答	0.7%	0.6%	7	0.6%

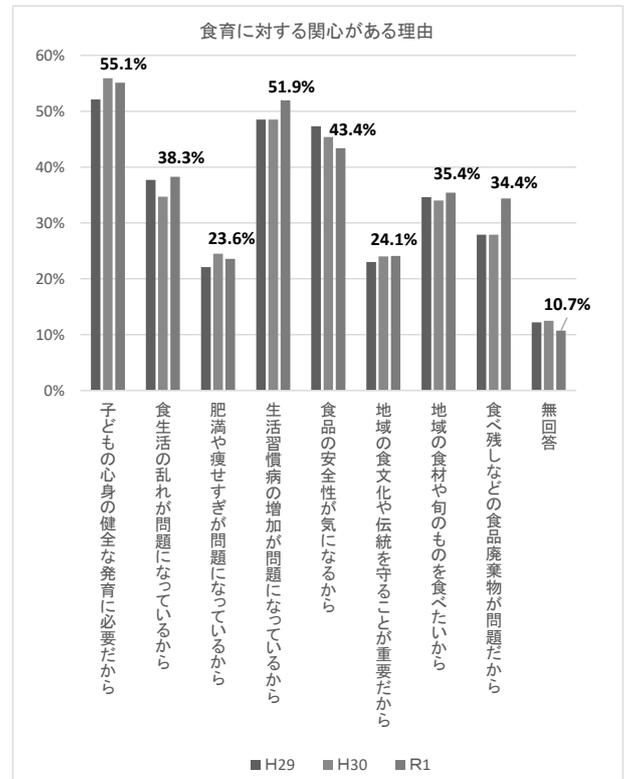
「関心がある」、「どちらかといえば関心がある」人の割合:76.9%
 ※参考: H30食育市民アンケート結果:75.9%(1.0ポイント増)



Q4:あなたが「食育」に関心がある理由は何ですか。(あてはまるもの全てに○)

n = 1,192

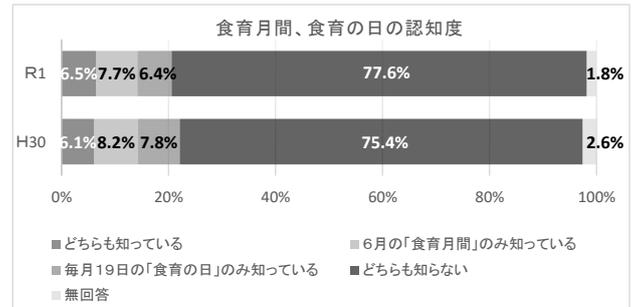
	H29	H30	R1	
ア 子どもの心身の健全な発育に必要なから	52.1%	55.9%	657	55.1%
イ 食生活の乱れが問題になっているから	37.7%	34.7%	456	38.3%
ウ 肥満や痩せすぎが問題になっているから	22.1%	24.5%	281	23.6%
エ 生活習慣病の増加が問題になっているから	48.5%	48.5%	619	51.9%
オ 食品の安全性が気になるから	47.3%	45.4%	517	43.4%
カ 地域の食文化や伝統を守ることが重要だから	23.0%	24.0%	287	24.1%
キ 地域の食材や旬のものを食べたいから	34.6%	34.0%	422	35.4%
ク 食べ残しなどの食品廃棄物が問題だから	27.9%	27.9%	410	34.4%
無回答	12.2%	12.5%	128	10.7%



Q5:あなたは6月の「食育月間」、毎月19日の「食育の日」を知っていますか。

n = 1,192

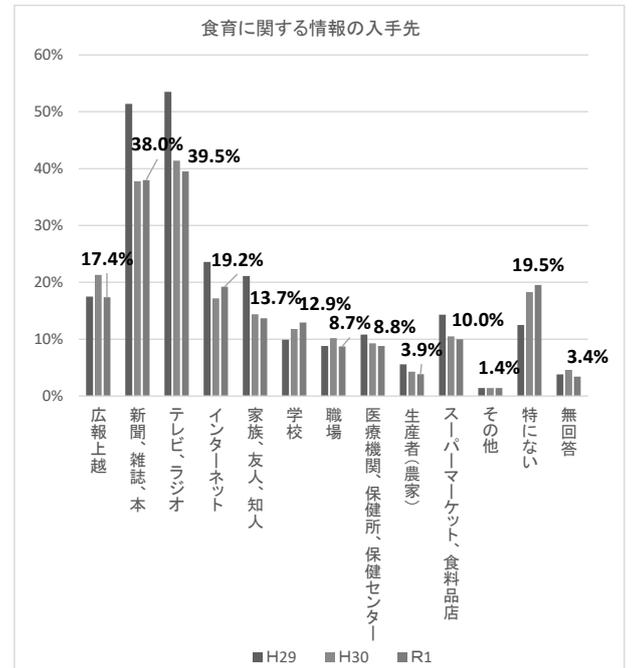
	H29	H30	R1	
ア どちらも知っている	-	6.1%	77	6.5%
イ 6月の「食育月間」のみ知っている	-	8.2%	92	7.7%
ウ 毎月19日の「食育の日」のみ知っている	-	7.8%	76	6.4%
エ どちらも知らない	-	75.4%	925	77.6%
無回答	-	2.6%	22	1.8%



Q6:あなたは、食育に関する情報をどこから入手していますか。(あてはまるもの全てに○)

n = 1,192

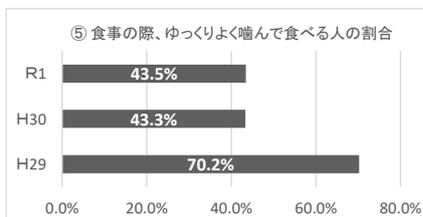
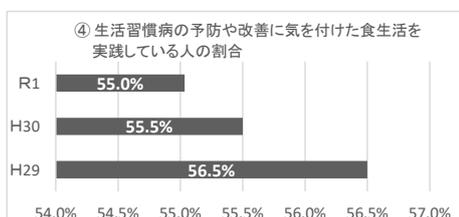
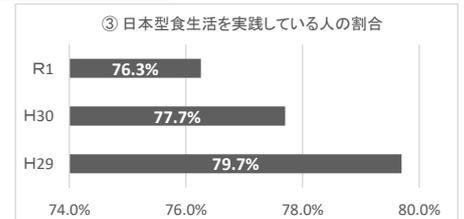
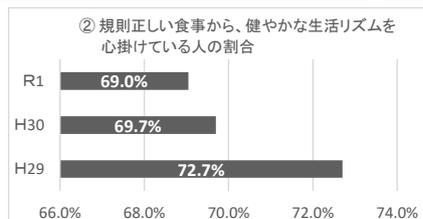
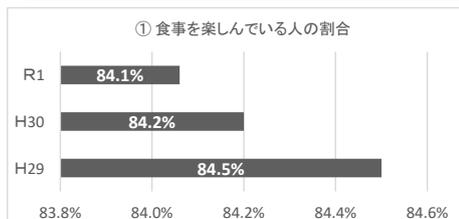
	H29	H30	R1	
ア 広報上越	17.5%	21.3%	207	17.4%
イ 新聞、雑誌、本	51.4%	37.8%	453	38.0%
ウ テレビ、ラジオ	53.5%	41.4%	471	39.5%
エ インターネット	23.6%	17.2%	229	19.2%
オ 家族、友人、知人	21.1%	14.4%	163	13.7%
カ 学校	9.9%	11.8%	154	12.9%
キ 職場	8.8%	10.2%	104	8.7%
ク 医療機関、保健所、保健センター	10.8%	9.3%	105	8.8%
ケ 生産者(農家)	5.6%	4.3%	46	3.9%
コ スーパーマーケット、食料品店	14.3%	10.5%	119	10.0%
サ その他	1.4%	1.4%	17	1.4%
シ 特になし	12.5%	18.3%	233	19.5%
無回答	3.8%	4.6%	41	3.4%



Q7:あなたは、普段の食生活で、下記の内容をどの程度実践していますか。(それぞれ1つだけ○)

n = 1,192

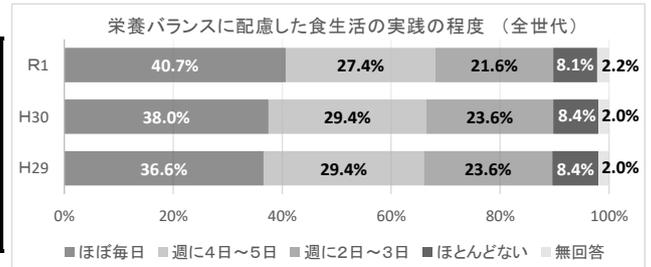
	ほとんできている・おおむねできている				無回答	ほとんできている・おおむねできている		
	ほとんどできている	おおむねできている	あまりできていない	まったくできていない		H29	H30	R1
① 食事を楽しんでいる	373	629	138	14	38	84.5%	84.2%	84.1%
② 規則正しい食事から、健やかな生活リズムを心掛けている	277	546	294	41	34	72.7%	69.7%	69.0%
③ ごはんを中心とした和食(日本型食生活)を実践している	338	571	227	28	28	79.7%	77.7%	76.3%
④ 生活習慣病の予防や改善のため、適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践している	145	511	437	69	30	56.5%	55.5%	55.0%
⑤ 食事の際に、ゆっくりよく噛んで食べている	112	406	555	85	34	70.2%	43.3%	43.5%



Q8: あなたは、主食(ごはん・パン・麺など)・主菜(肉・魚・卵・大豆製品などを使ったメインの料理)・副菜(野菜・きのこ・いも・海藻などを使った小鉢・小皿の料理)を3つそろえて食べることが1日に2回以上あるのは、週に何日ありますか。(1つだけ○)

n = 1,192

	H29	H30	R1
ア ほぼ毎日	36.6%	38.0%	485 40.7%
イ 週に4日～5日	29.4%	29.4%	327 27.4%
ウ 週に2日～3日	23.6%	23.6%	258 21.6%
エ ほとんどない	8.4%	8.4%	96 8.1%
無回答	2.0%	2.0%	26 2.2%



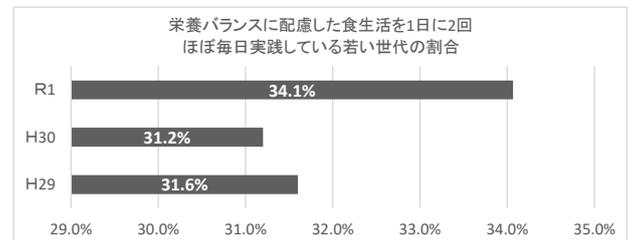
【若い世代(20歳～39歳)のみ】

(参考:H29)

(参考:H30)

n = 273

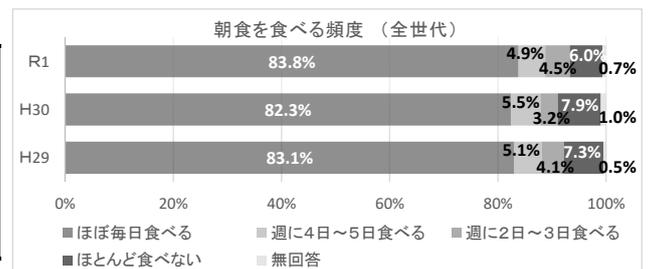
	H29	H30	R1
ア ほぼ毎日	31.6%	31.2%	93 34.1%



Q9: あなたは普段朝食を食べますか。(1つだけ○)

n = 1,192

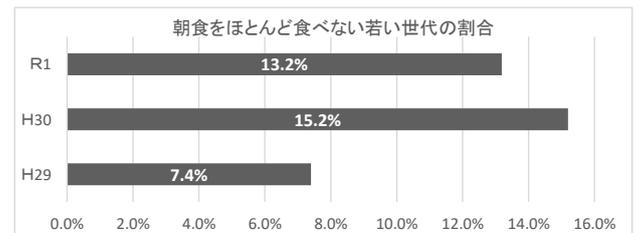
	H29	H30	R1
ア ほぼ毎日食べる	83.1%	82.3%	999 83.8%
イ 週に4日～5日食べる	5.1%	5.5%	59 4.9%
ウ 週に2日～3日食べる	4.1%	3.2%	54 4.5%
エ ほとんど食べない	7.3%	7.9%	72 6.0%
無回答	0.5%	1.0%	8 0.7%



【若い世代(20歳～39歳)のみ】

n = 273

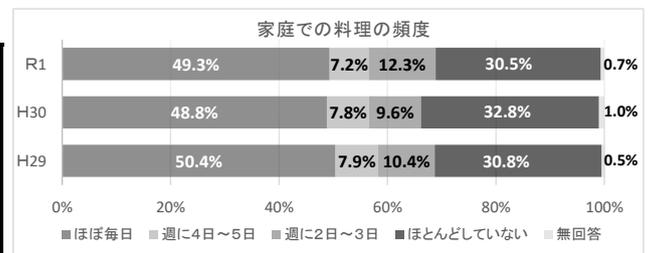
	H29	H30	R1
エ ほとんど食べない	7.4%	15.2%	36 13.2%



Q10: あなたは、家庭で料理をしていますか。(1つだけ○)

n = 1,192

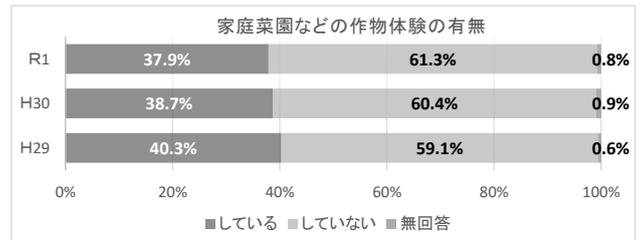
	H29	H30	R1
ア ほぼ毎日	50.4%	48.8%	588 49.3%
イ 週に4日～5日	7.9%	7.8%	86 7.2%
ウ 週に2日～3日	10.4%	9.6%	147 12.3%
エ ほとんどしていない	30.8%	32.8%	363 30.5%
無回答	0.5%	1.0%	8 0.7%



Q11:あなたは、家庭菜園などの作物栽培等をしていますか。(1つだけ○)

n = 1,192

	H29	H30	R1	
ア している	40.3%	38.7%	452	37.9%
イ していない	59.1%	60.4%	731	61.3%
無回答	0.6%	0.9%	9	0.8%

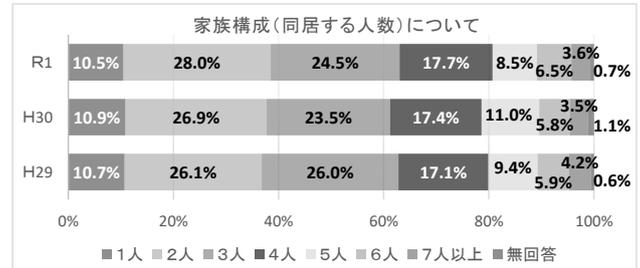


Q12:家族との食事についておたずねします。

①あなたの家族構成について、あなたが同居している方はあなたを含めて何人ですか。(1つだけ○)

n = 1,192

	H29	H30	R1	
ア 1人	10.7%	10.9%	125	10.5%
イ 2人	26.1%	26.9%	334	28.0%
ウ 3人	26.0%	23.5%	292	24.5%
エ 4人	17.1%	17.4%	211	17.7%
オ 5人	9.4%	11.0%	101	8.5%
カ 6人	5.9%	5.8%	78	6.5%
キ 7人以上	4.2%	3.5%	43	3.6%
無回答	0.6%	1.1%	8	0.7%



家族と同居している方だけに①で「イ」から「キ」と回答した方おたずねします。

②あなたが朝食または夕食を家族と一緒に食べる回数は1週間にどのくらいありますか。(1週間7日で朝食・夕食2回、14回を最大とする。)

n = 1,059

	H29	H30	R1
1週間のうち朝食または夕食を家族と一緒に食べる回数(平均)	10回	9回	9回

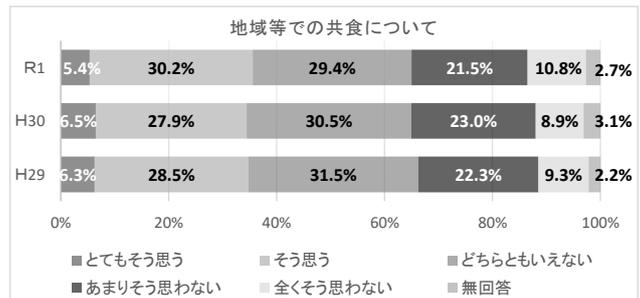
Q13:地域等での共食についておたずねします。

①地域や所属コミュニティ(職場等を含む)での食事会等の機会があれば、あなたは参加したいと思いますか。(1つだけ○)

n = 1,192

	H29	H30	R1	
ア とてもそう思う	6.3%	6.5%	64	5.4%
イ そう思う	28.5%	27.9%	360	30.2%
ウ どちらともいえない	31.5%	30.5%	351	29.4%
エ あまりそう思わない	22.3%	23.0%	256	21.5%
オ 全くそう思わない	9.3%	8.9%	129	10.8%
無回答	2.2%	3.1%	32	2.7%

地域で共食したいと思う人の割合(「とてもそう思う」、「そう思う」の合計):35.6%
※参考: H30食育市民アンケート結果34.4%(1.2ポイント増)

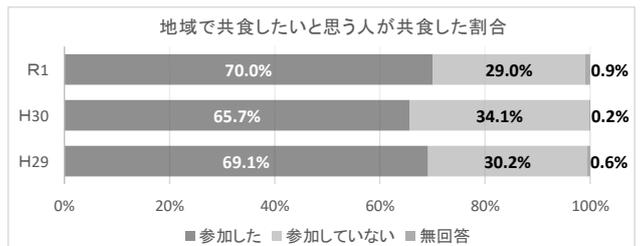


①でア(とてもそう思う)またはイ(そう思う)を選択した方にお聞きします。

②あなたは過去1年間に、地域や所属コミュニティでの食事会等に参加しましたか。

n = 424

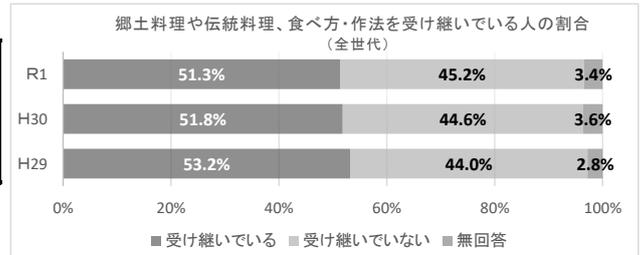
	H29	H30	R1	
ア 参加した	69.1%	65.7%	297	70.0%
イ 参加していない	30.2%	34.1%	123	29.0%
無回答	0.6%	0.2%	4	0.9%



Q14:あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭において受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を受け継いでいますか。(1つだけ○)

n = 1,192

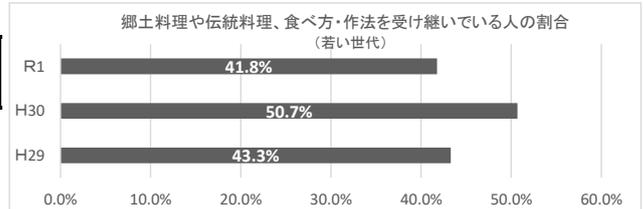
	H29	H30	R1	
ア 受け継いでいる	53.2%	51.8%	612	51.3%
イ 受け継いでいない	44.0%	44.6%	539	45.2%
ウ 無回答	2.8%	3.6%	41	3.4%



【若い世代(20歳~30歳)のみ】

n = 273

	H29	H30	R1	
ア 受け継いでいる	43.3%	50.7%	114	41.8%

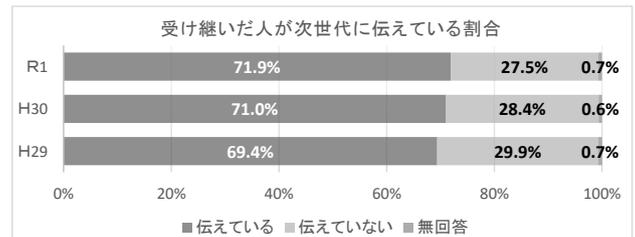


①でア(受け継いでいる)と回答した方におたずねします。

②あなたは、郷土料理や伝統料理など、地域や家庭において受け継がれてきた料理や味、箸づかいなどの食べ方・作法を地域や次世代(子やお孫さんを含む)に対し伝えていますか。(1つだけ○)

n = 612

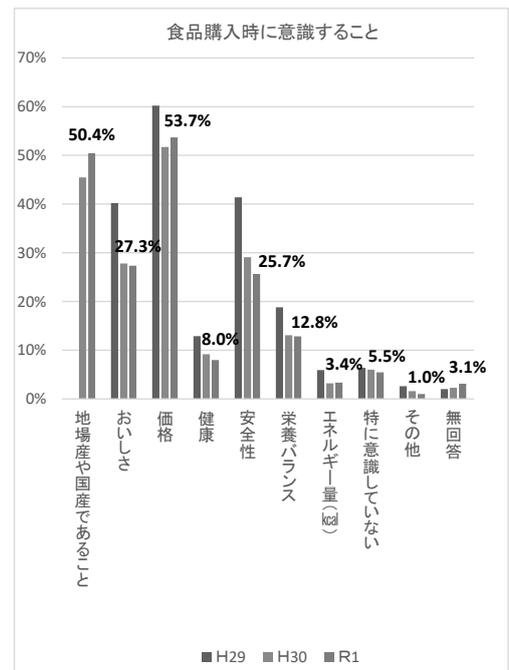
	H29	H30	R1	
ア 伝えている	69.4%	71.0%	440	71.9%
イ 伝えていない	29.9%	28.4%	168	27.5%
ウ 無回答	0.7%	0.6%	4	0.7%



Q15:あなたが、食品を購入する際に特に意識していることは何ですか。(2つまで○)

n = 1,192

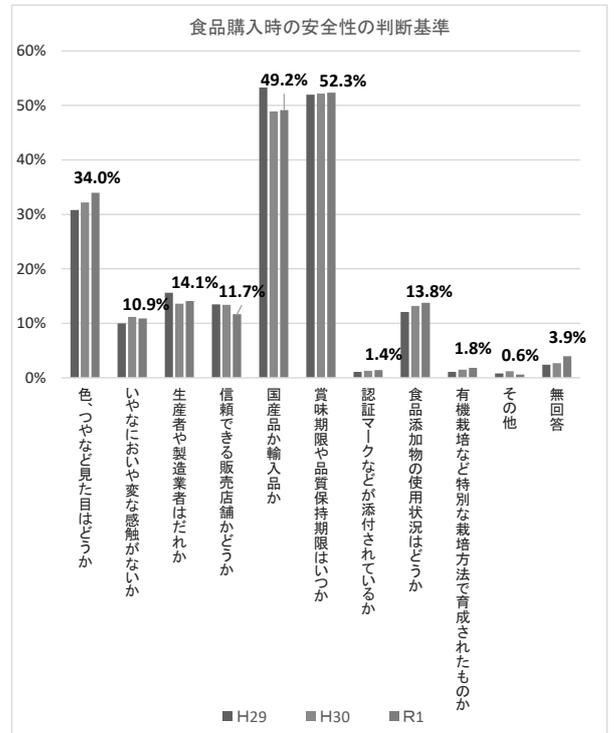
	H29	H30	R1	
ア 地場産や国産であること	-	45.5%	601	50.4%
イ おいしさ	40.2%	27.8%	326	27.3%
ウ 価格	60.2%	51.7%	640	53.7%
エ 健康	12.9%	9.2%	95	8.0%
オ 安全性	41.4%	29.1%	306	25.7%
カ 栄養バランス	18.8%	13.1%	153	12.8%
キ エネルギー量(kcal)	5.9%	3.2%	40	3.4%
ク 特に意識していない	6.4%	6.0%	65	5.5%
ケ その他	2.6%	1.6%	12	1.0%
無回答	2.0%	2.3%	37	3.1%



Q16:あなたが、食品を購入する際に安全性をどのように判断しますか。(2つまで○)

n = 1,192

	H29	H30	R1	
ア 色、つやなど見た目はどうか	30.8%	32.2%	405	34.0%
イ いやなおいや変な感触がないか	10.0%	11.2%	130	10.9%
ウ 生産者や製造業者はだれか	15.6%	13.6%	168	14.1%
エ 信頼できる販売店舗かどうか	13.5%	13.4%	139	11.7%
オ 国産品か輸入品か	53.3%	48.9%	586	49.2%
カ 賞味期限や品質保持期限はいつか	52.0%	52.2%	624	52.3%
キ 認証マークなどが添付されているか	1.1%	1.3%	17	1.4%
ク 食品添加物の使用状況はどうか	12.1%	13.2%	164	13.8%
ケ 有機栽培など特別な栽培方法で育成されたものか	1.1%	1.5%	22	1.8%
コ その他	0.8%	1.2%	7	0.6%
無回答	2.4%	2.7%	47	3.9%

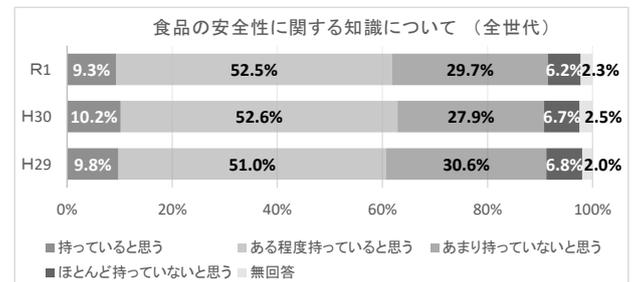


Q17:あなたは、食の安全に関してどの程度知識を持っていると思いますか。(1つだけ○)

n = 1,192

	H29	H30	R1	
ア 持っていると思う	9.8%	10.2%	111	9.3%
イ ある程度持っていると思う	51.0%	52.6%	626	52.5%
ウ あまり持っていないと思う	30.6%	27.9%	354	29.7%
エ ほとんど持っていないと思う	6.8%	6.7%	74	6.2%
無回答	2.0%	2.5%	27	2.3%

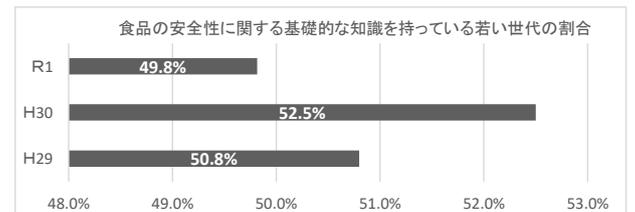
「持っていると思う」、「ある程度持っていると思う」人の割合:61.8%
 ※参考: H30食育市民アンケート結果:62.8%(1.0ポイント減)



【若い世代(20歳~39歳)のみ】

n = 273

	H29	H30	R1	
食品の安全性に関する基礎的な知識を持っている市民の割合	50.8%	52.5%	136	49.8%

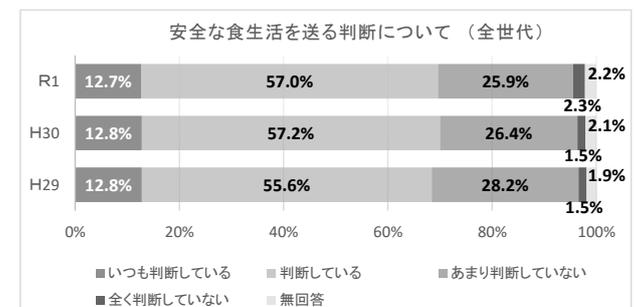


Q18:あなたは、安全な食生活を送ることについてどの程度判断していますか。(1つだけ○)

n = 1,192

	H29	H30	R1	
ア いつも判断している	12.8%	12.8%	151	12.7%
イ 判断している	55.6%	57.2%	679	57.0%
ウ あまり判断していない	28.2%	26.4%	309	25.9%
エ 全く判断していない	1.5%	1.5%	27	2.3%
無回答	1.9%	2.1%	26	2.2%

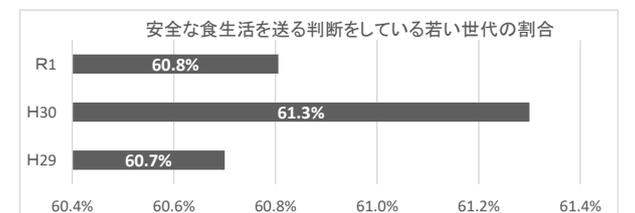
「いつも判断している」、「判断している」人の割合:69.7%
 ※参考: H30食育市民アンケート結果:62.1%(7.6ポイント増)



【若い世代(20歳~39歳)のみ】

n = 273

	H29	H30	R1	
安全な食生活を送ることについて判断している市民の割合	60.7%	61.3%	166	60.8%



食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する市民の割合 (Q17でアもしくはイと回答し、かつQ18でアもしくはイと回答した人)

- ・全世代:50.5%
- ・若い世代:42.5%

Q19:食品ロスについておたずねします。

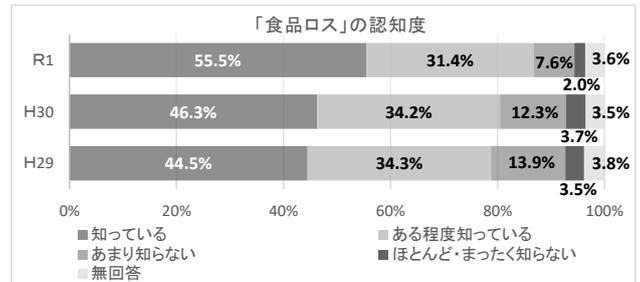
①あなたは、こうした「食品ロス」という問題を知っていますか。(1つだけ〇)

n = 1,192

	H29	H30	R1	
ア 知っている	44.5%	46.3%	661	55.5%
イ ある程度知っている	34.3%	34.2%	374	31.4%
ウ あまり知らない	13.9%	12.3%	90	7.6%
エ ほとんど・まったく知らない	3.5%	3.7%	24	2.0%
無回答	3.8%	3.5%	43	3.6%

「知っている」、「ある程度知っている」人の割合:86.9%

※参考: H30食育市民アンケート結果:80.5%(6.4ポイント増)



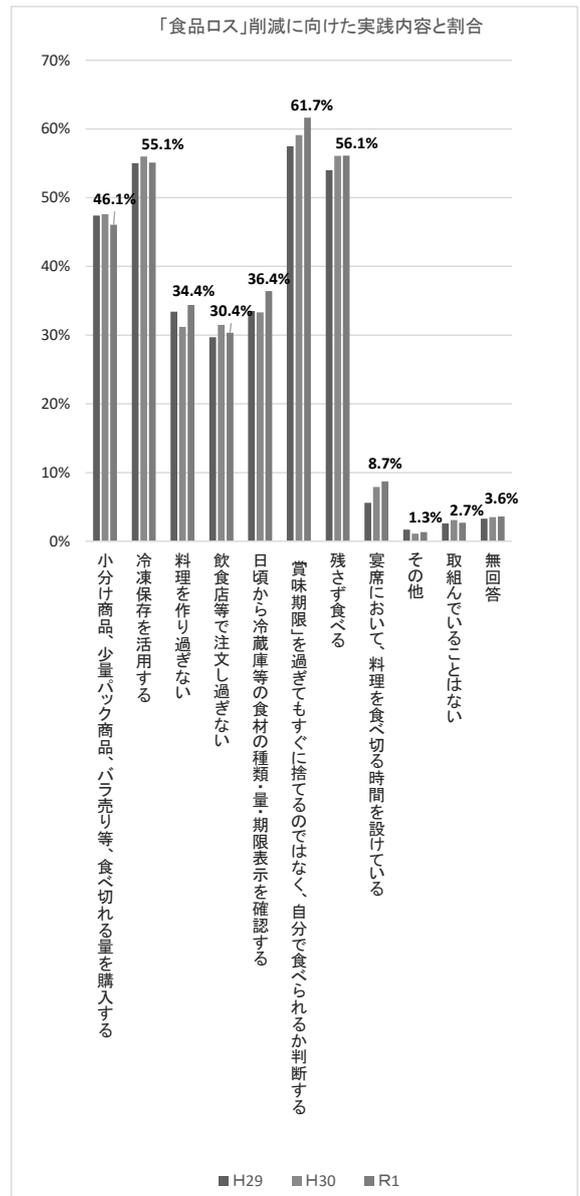
②あなたは、「食品ロス」を軽減するために取り組んでいることはありますか。(複数選択可)

n = 1,192

	H29	H30	R1	
ア 小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べ切れる量を購入する	47.4%	47.6%	549	46.1%
イ 冷凍保存を活用する	55.0%	56.0%	657	55.1%
ウ 料理を作り過ぎない	33.4%	31.2%	410	34.4%
エ 飲食店等で注文し過ぎない	29.7%	31.5%	362	30.4%
オ 日頃から冷蔵庫等の食材の種類・量・期限表示を確認する	33.5%	33.3%	434	36.4%
カ 「賞味期限」を過ぎてもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する	57.5%	59.1%	735	61.7%
キ 残さず食べる	54.0%	56.1%	669	56.1%
ク 宴席において、料理を食べ切る時間を設けている	5.6%	7.9%	104	8.7%
ケ その他	1.7%	1.1%	16	1.3%
コ 取り組んでいることはない	2.6%	3.1%	32	2.7%
無回答	3.3%	3.5%	43	3.6%

食品ロスをよく知っている(ある程度知っている)人が、軽減のために取り組んでいる割合:85.2%

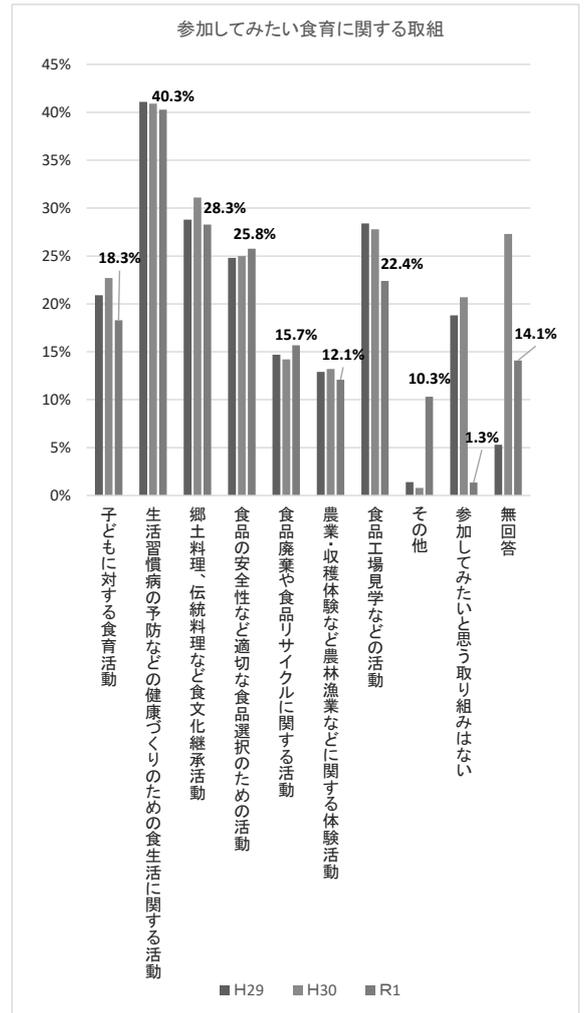
※参考: H30食育市民アンケート結果:79.1%(6.1ポイント増)



Q20:市やNPO、企業などの食育に関する取組で、あなたが参加してみたいと思うものはありますか。(3つまで○)

n = 1,192

	H29	H30	R1	
ア 子どもに対する食育活動	20.9%	22.7%	218	18.3%
イ 生活習慣病の予防などの健康づくりのための食生活に関する活動	41.1%	40.9%	480	40.3%
ウ 郷土料理、伝統料理など食文化継承活動	28.8%	31.1%	337	28.3%
エ 食品の安全性など適切な食品選択のための活動	24.8%	25.0%	307	25.8%
オ 食品廃棄や食品リサイクルに関する活動	14.7%	14.2%	187	15.7%
カ 農業・収穫体験など農林漁業などに関する体験活動	12.9%	13.2%	144	12.1%
キ 食品工場見学などの活動	28.4%	27.8%	267	22.4%
ク その他	1.4%	0.8%	123	10.3%
ケ 参加してみたいと思う取り組みはない	18.8%	20.7%	16	1.3%
無回答	5.3%	27.3%	168	14.1%



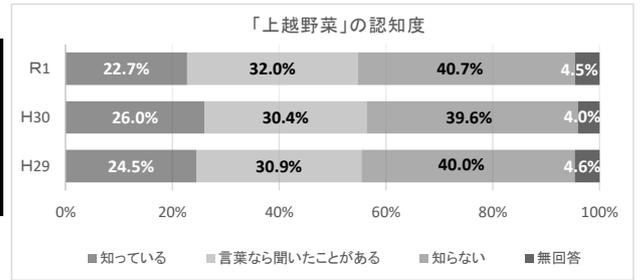
Q21:あなたは、「上越野菜」を知っていますか。(1つだけ選択)

n = 1,192

	H29	H30	R1	
ア 知っている	24.5%	26.0%	271	22.7%
イ 言葉なら聞いたことがある	30.9%	30.4%	382	32.0%
ウ 知らない	40.0%	39.6%	485	40.7%
無回答	4.6%	4.0%	54	4.5%

Q:24

Q:22、23、2

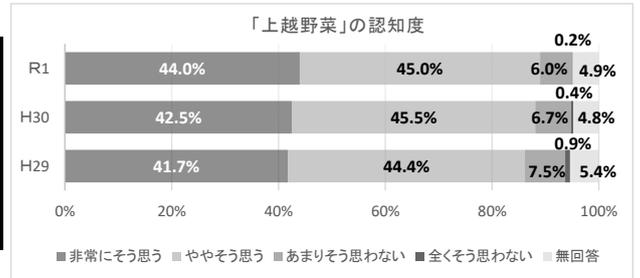


Q22:「上越野菜」の全体のイメージについてお聞きます。

①「上越野菜」は地産地消を代表するものである

n = 653

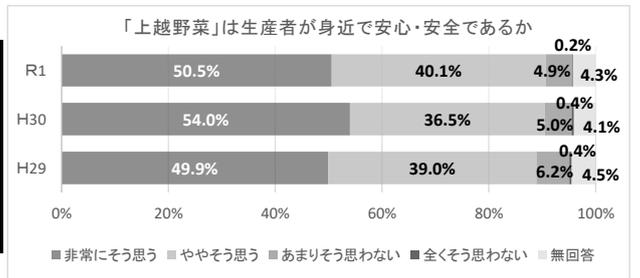
	H29	H30	R1	
ア 非常にそう思う	41.7%	42.5%	287	44.0%
イ ややそう思う	44.4%	45.5%	294	45.0%
ウ あまりそう思わない	7.5%	6.7%	39	6.0%
エ 全くそう思わない	0.9%	0.4%	1	0.2%
無回答	5.4%	4.8%	32	4.9%



②「上越野菜」は生産者が身近で安心・安全である。

n = 653

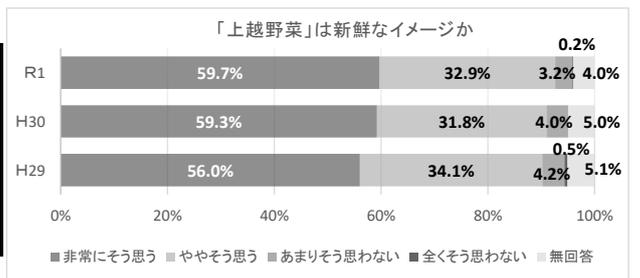
	H29	H30	R1	
ア 非常にそう思う	49.9%	54.0%	330	50.5%
イ ややそう思う	39.0%	36.5%	262	40.1%
ウ あまりそう思わない	6.2%	5.0%	32	4.9%
エ 全くそう思わない	0.4%	0.4%	1	0.2%
無回答	4.5%	4.1%	28	4.3%



③「上越野菜」は新鮮で旬なイメージである。

n = 653

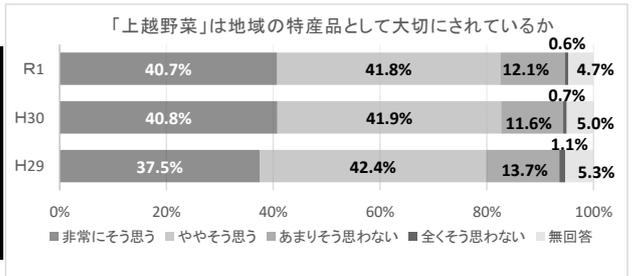
	H29	H30	R1	
ア 非常にそう思う	56.0%	59.3%	390	59.7%
イ ややそう思う	34.1%	31.8%	215	32.9%
ウ あまりそう思わない	4.2%	4.0%	21	3.2%
エ 全くそう思わない	0.5%	0.0%	1	0.2%
無回答	5.1%	5.0%	26	4.0%



③「上越野菜」は地域の特産品として大切にされている。

n = 653

	H29	H30	R1	
ア 非常にそう思う	37.5%	40.8%	266	40.7%
イ ややそう思う	42.4%	41.9%	273	41.8%
ウ あまりそう思わない	13.7%	11.6%	79	12.1%
エ 全くそう思わない	1.1%	0.7%	4	0.6%
無回答	5.3%	5.0%	31	4.7%

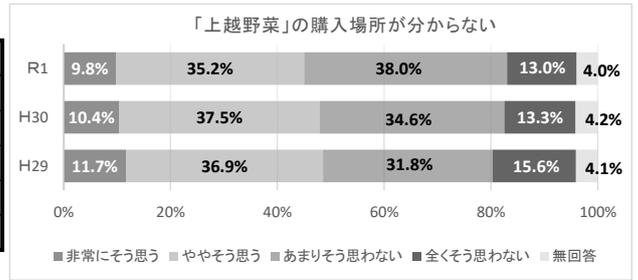


Q23:「上越野菜」の課題、問題点をお聞きます。

①「上越野菜」の購入場所が分からない。

n = 653

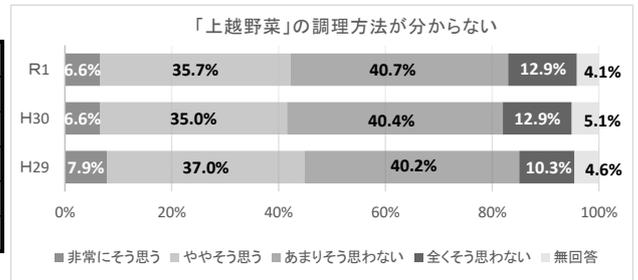
		H29	H30	R1	
ア	非常にそう思う	11.7%	10.4%	64	9.8%
イ	ややそう思う	36.9%	37.5%	230	35.2%
ウ	あまりそう思わない	31.8%	34.6%	248	38.0%
エ	全くそう思わない	15.6%	13.3%	85	13.0%
	無回答	4.1%	4.2%	26	4.0%



②「上越野菜」の調理方法が良く分からない。

n = 653

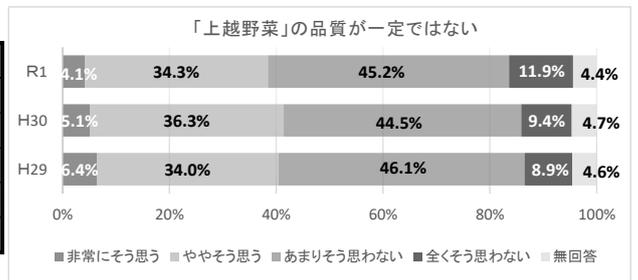
		H29	H30	R1	
ア	非常にそう思う	7.9%	6.6%	43	6.6%
イ	ややそう思う	37.0%	35.0%	233	35.7%
ウ	あまりそう思わない	40.2%	40.4%	266	40.7%
エ	全くそう思わない	10.3%	12.9%	84	12.9%
	無回答	4.6%	5.1%	27	4.1%



③「上越野菜」の品質が一定ではない。

n = 653

		H29	H30	R1	
ア	非常にそう思う	6.4%	5.1%	27	4.1%
イ	ややそう思う	34.0%	36.3%	224	34.3%
ウ	あまりそう思わない	46.1%	44.5%	295	45.2%
エ	全くそう思わない	8.9%	9.4%	78	11.9%
	無回答	4.6%	4.7%	29	4.4%



Q24:次にあげる「上越野菜」のうち、あなたがよく食べる上越野菜はどれですか。(全てに○)

n = 1,192

	よく食べる上越野菜	割合
①	高田シロウリ	57 4.8%
②	仁野分しょうが	84 7.0%
③	みょうが	654 54.9%
④	頸城オクラ	326 27.3%
⑤	オニゴシヨウ	52 4.4%
⑥	ばなな南瓜	61 5.1%
⑦	なます南瓜	307 25.8%
⑧	曲がりネギ	235 19.7%
⑨	ずいき	376 31.5%
⑩	とうな	696 58.4%
⑪	ひとくちまくわ	272 22.8%
⑫	なす(越の丸、新潟黒十全)	587 49.2%
⑬	オータムポエム	575 48.2%
⑭	アスパラ菜	454 38.1%
⑮	カリフラワー	422 35.4%
⑯	枝豆	828 69.5%

